

発刊に当たって

本校では、昨年度から教科を取り上げ、児童生徒の側に立って教科の学習過程を見直し、授業改善に当たってきました。

昨年度は、研究主題を『社会に開かれた教育課程編成の在り方～主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた学習過程の改善～』とし、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点を採り入れて授業づくりを行いました。その視点だけでなく、視覚優位・聴覚優位、同時処理優位・継次処理優位などといった個々の児童生徒の認知の特性のほか、これまで知的障害教育において蓄えてきたノウハウ(自閉症児の学び方に関する知見等々)も踏まえました。また、教科指導においても、指導目標や内容に応じて、地域資源を活用して児童生徒に学習活動に向かう目的意識や意欲をもたせたり、地域の方々の評価を取り入れながら学習活動を展開したりすることが有効であることが確かめられました。

今年度は、『主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた教科の授業づくり』と、何を行うのかが分かりやすい、シンプルな研究主題にしました。

と言いましても、行ったのはこれだけではなく、研究と並行して、今年度の学校の重点取組の一つとして「意思表示やセルフコントロールの力を高める生徒指導の充実」のため、表情や身振り・手振り、指文字・手話のほか、VOCAや視線入力装置などのICT機器も使って意思表示をする力を高める取組を行いました。また、安定した気持ちで授業に参加できるようにすることも重要であることから、自分の気持ちを表現したり、相手の話を聞いて考えたりする機会を増やしてコミュニケーションを活発にし、人と関わる力や自分の気持ちをコントロールする力を高めることにも努めました。

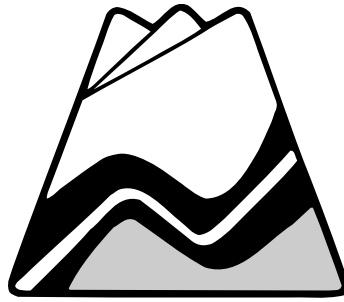
さらには、昨年度に引き続き、教育専門監に各学部の国語科の授業の一つをT2として担当してもらい、これまで小・中学校等の多くの授業を見てきた経験を還元してもらいました。

本校においても「各教科等を合わせた指導」を中心に据えています。教科の研究に取り組むことにより、それらの質も向上するのではないかと期待しているところです。具体的には、①〈何と何の教科や領域等の、何と何の内容を合わせるのかを明確にして授業づくりを行う〉こと、②〈教科の授業で学んだ内容を、合わせた指導の中で活用する〉ことや、〈合わせた指導の中で見えてきた児童生徒の学習課題を、教科の指導で取り上げる〉といった“つながり”のある指導を行うこと、が促されると考えるからです。

これらは、本校の今後の課題の一つでもあると捉えています。皆様には、引き続き、御指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、研究を進めるに当たりまして、秋田県教育庁特別支援教育課の指導班の皆様から御助言と御協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

校長 佐藤 淳



目次

発刊に当たって	1
I 研究の概要と経過（全体）	3
II 各学部・寄宿舍の研究	
小学部	14
中学部	25
高等部	39
寄宿舍	51
III 教育専門監との授業実践	58
IV 研究の成果と今後の取組	65
あしがき	73
研究同人	74

I 研究の概要（全体）

I 研究の概要

1 研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた教科の授業づくり

(1年次／2か年計画)

2 研究主題の設定理由

本校のこれまでの研究を通して築いた教育課程編成の「仕組み」を生かし、教育活動の計画、実践、評価、改善に取り組んでいる。仕組みの運用が定着してきたことにより、教育理念「拓く」から日々の授業までのつながりが意識された実践がなされるようになってきた。

昨年度までの2年間は、研究主題「社会に開かれた教育課程編成の在り方」のもと、地域との目標共有や「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた学習過程の改善に取り組んだ。

地域と目標を共有した授業実践においては、単に地域に出て活動するのではなく、その活動を通して児童生徒のどのような資質・能力の育成を図りたいのかを地域の人たちと話し合い、確認した。お互いの考えを伝え合い、共に意見を出し合いながら学習活動や単元構成等を検討・改善してきたことで、お互いに必要とする、必要とされる関係となってきた。

「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた学習過程の改善においては、「あきたの探求型授業」について研修し、実践を重ねた。普通小・中学校の授業の進め方をそのまま取り入れることはできないものの、特別支援学校の指導においても参考にできることが多く、本校では特に、児童生徒がお互いの考えを伝え合う授業展開の方法や教室環境の工夫を取り入れ、授業改善につなげた。児童生徒の実態に応じた取り入れ方の工夫・検討を行ったことで、授業展開や教師の発問、板書計画などが変化し、授業改善や児童生徒の変容へもつながってきている。

このように、これまでの研究の成果を生かし、本校の教育理念から日々の授業までのつながりを意識した教育活動を実践することで、地域の人的・物的資源を活用した学習活動の取り入れや単元構成などがなされ、特に、各教科等を合わせて行う指導において、授業の質が高まってきた。このことは「教科別の指導」の改善や充実も図られてきていると言い換えることができるはずである。しかし、実践を重ねてきた職員からは、「今指導していることが、どの教科の、どの部分と関連しているのか分からない」「今指導している内容が間違っていないか不安を感じている」などの意見が寄せられ、教科別の指導に対する自信のなさが伺われた。

そこで、各教科別の指導に関する内容等を再確認すること、その上で実践を積み重ねていくことを通し、各教科別の指導に対する教師の理解を深めていく必要があると考えた。併せて、児童生徒が各教科別の指導で学んだこと（内容や学び方など）を他の学習や日常生活、さらには社会生活へとつなげ、生きて働く知識とできるよう検討と実践を積み重ねていきたいとも考え、本年度の研究主題を設定した。

研究1年次の到達目標 : 各教科別の指導について内容等を再確認し、理解を深める。その上で、人的・物的環境の工夫改善を図り、知的障害特別支援学校の教科別の指導において大切にしたいポイントを見出す。

研究2年次の到達目標 : 1年次の研究で見出したポイントを生かし、授業実践を行う。その上で、児童生徒の学んだことを他の学習や日常生活、社会生活などへとつなげていく工夫を検討する。

3 研究の目的

- ア 児童生徒の学び方の特徴に注目し、主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を行う。
- イ 物的環境（教材・教具や補助具の工夫、ICT 機器等の活用等）や人的環境（発問、教師の役割分担等）の工夫改善により、児童生徒の学習課題に向かう意欲や学び合いを促し、学習内容の理解度を高める。
- ウ 各教科別の指導についての理解を深めるとともに、各教科別の指導で学んだこと（内容や学び方など）を他の学習場面や生活場面へとつなげ、活用を図る。

4 研究仮説

各教科別の指導における指導内容を再度確認するとともに、学習過程や学習計画の工夫、学びを振り返ることのできる環境設定などを行いながら、授業改善を行う。教科別の指導への教師の理解が深まり、指導力が高まることで、児童生徒に育成すべき資質・能力を身に付けられる授業へと改善されるであろう。

5 研究内容・方法

ア 学習過程の改善

- ・国語科、保健体育科、職業科に関する各教科別の指導の特質に応じた「見方・考え方」の確認とそれを意識した単元構成や授業の展開の検討
※国語科、保健体育科、職業科は、今年度の研究対象
- ・振り返りの充実
（自分の学んだ知識と考えたことを結び付け、自分の思考を再構築する学習活動の取り入れ）
（児童生徒の学びを振り返るための振り返り表の活用やV T R等での記録 他）
- ・学んだことを活用する場面の設定
（1 単位時間の学習過程の工夫と改善、単元・題材間での学びの関連付け 他）
- ・体験的な学習の取り入れや言語活動等の拡充

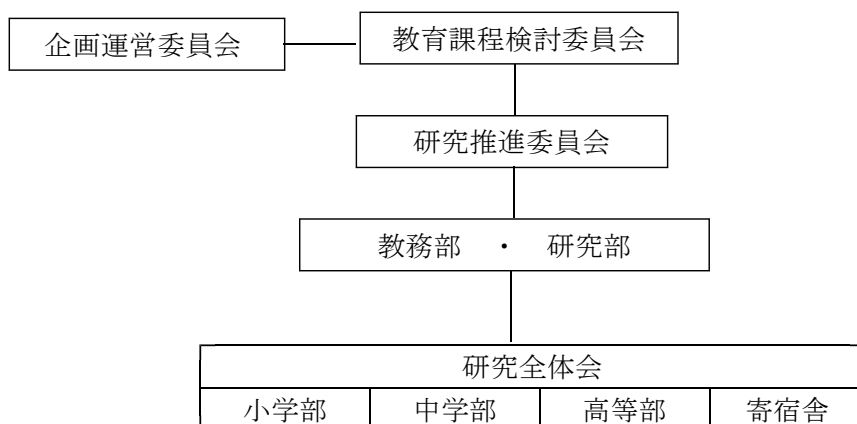
イ 児童生徒個々の学び方に応じた支援方法・教材の工夫

- ・学びの過程を振り返ることのできる環境設定の工夫
（学習活動の流れや過程が見える、板書、掲示、教室環境等の工夫 他）
- ・意思表示を促すための教材教具の工夫
（手話やサインの活用、ICT機器の有効活用 他）
- ・繰り返し学習できる題材・単元、学習活動の設定

ウ 教育課程編成の仕組みに基づいた実践

- ・地域や関連機関等との連携や活用
- ・校内外の人材の活用
（教育課程コーディネーターの活用、教育専門監の活用 他）
- ・教科等横断的な視点での学習内容の組立

6 研究組織



教育課程検討委員会：校長・教頭・学部主事・主任寄宿舎指導員・分掌主任・各学部研究リーダー

研究推進委員会：校長・教頭・学部主事・教育課程コーディネーター※
研究部・寄宿舎研究担当

※教育課程コーディネーター：各学部の指導計画の立案や実施に当たり、学校目標や学部目標とのつながりを学級担任等に助言したり、地域の活用の有効性を伝え調整したりする。

7 研究計画

	実施時期	実施内容	研究に関して
第 一 年 次	4月11日	教育課程コーディネーター会	検討会の視点の確認
	11日	研究推進委員会①	今年度の研究の計画や進め方について
	24日	研究全体会①	今年度の全校研究について
	25日	学部研①	今年度の学部研究について (学部での確認と共通理解)
	26日	単元・題材検討会①	本年度の研究領域となる教科の検討
	5月8日	単元・題材検討会②	本年度の主となる単元・題材の検討
	18日	学部研②	研究全体会に向けて
	24日	研究全体会②	今年度の学部・寄宿舎研究について
	6月17日	学部研③	教科別の指導（研究対象教科）の 特質に応じた「見方・考え方」の 確認
	7月18日	教育課程コーディネーター会	各学部での情報共有
	23日	単元・題材検討会③	7月までの実践についての評価と今 後の取組について
	24日	学部研④	教科別の指導についての職員研修会 授業づくりに向けて① (単元構成や授業の展開の検討等)

今年度の研究の方向性と実施内容の共通理解

【教務部と連携して】

- 一人一人の中心的課題の確認
- 各教科・領域等の年計のつながりの確認 他

研究主題に基づいた授業づくりの実践

- 各教科別の指導の特質について確認
- 自立活動についての研修会 他

地域アンケートの実施（地連コーデと連携）

8月19日	学部研⑤	自立活動についての研修会 授業づくりに向けて② (自立活動の視点を生かした検討)		
9月3日	教育課程検討委員会	中間評価に関連した学部・分掌連携について		
4日	学部研⑥	授業づくりに向けて③ (指導案検討や授業展開のロールプレイ等)		
10日	全校授業研究会①	学部研究に沿って授業提示 (中学部)		
30日	自立活動の「流れ図」	作成した「流れ図」のポスター発表 ・意見交換		
10月16日	学部研⑦	授業づくりに向けて④ (指導案検討や授業展開のロールプレイ等)		
11月12日	学部研⑧	授業づくりに向けて⑤ (指導案検討や授業展開のロールプレイ等)		
14日	全校授業研究会②	学部研究に沿って授業提示 (小学部)		
12月3日	全校授業研究会③	学部研究に沿って授業提示 (高等部)		
4日	支援機器等活用推進事業の中間発表会	これまでの取組についての発表		
16日	学部研⑨	今年度の学部研究・実践のまとめ		
19日	教育課程コーディネーター会	次年度の教育課程編成に向けて		
20日	単元・題材検討会④	今年度の実践についての評価と今後の取組について		
1月9日	学部研⑩	今年度研究のまとめと評価 紀要原稿作成について		
2月7日	学部研⑪	次年度の取組について		
10日	教育課程検討委員会	次年度の運営方針と教育課程編成について		
3月11日	研究全体会③	今年度の実践のまとめと次年度の取組について (発表と意見交換)		
15日	教育課程検討委員会	次年度の教育課程編成について		
<p>○各学部の教育課程コーディネーターと学級担任が定期的に教育課程編成の進捗状況を協議し、調整する。</p> <p>(主な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援計画・個別の指導計画の立案と評価の協議 ・年間指導計画の協議 ・生活単元学習を中心としたの単元・題材検討 ・授業研究会の授業づくりへの助言 				

Ⅱ 研究の実際

1 研究テーマに基づいた授業づくり

今年度の研究主題「主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた教科の授業づくり」のもと、全校で授業改善に取り組んだ。今年度は小学部が国語科、中学部が保健体育科、高等部が職業科を研究対象教科に取り上げ、実践した。

(1) 職員研修会の実施（7月24日実施）

夏期休業中、総合教育センターのC講座研修に参加した職員を講師とし、知的障害のある児童生徒への「教科別の指導」について学んだ。

ここでは、知的障害のある児童生徒への学習指導要領の改訂について改めて確認したとともに、実態把握を的確に行い指導計画を立てることの大切さを学んだ。また、これからの時代の授業づくりのポイントとして、次の2点を大切にしてもらいたいことを学んだ。

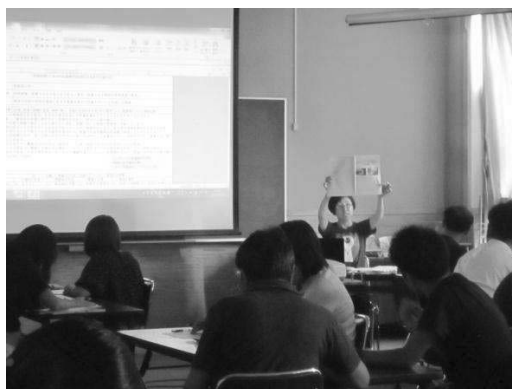
- 大切にしてほしいポイント：
- ①「状況の変化に対応できる力」を育成していくこと
 - ②学んだことを他の場面でも生かせる力へとつなげていくためのアクティブな活動と振り返り

(2) 自立活動の視点を日々の授業づくりや指導に生かす取組

自立活動の指導が各教科等において育まれる資質・能力を支える役割を担っていることを踏まえ、自立活動の研修会を行った。

①自立活動についての研修会（8月19日実施）

自立活動のプロジェクトに参加している職員から自立活動について学んだ。自立活動は全ての指導の基盤となっていることの確認やどんなことを大切にしながら自立活動の「流れ図」を作成するのかなどを教えてもらった。



②自立活動の「流れ図」を見合う会（9月30日実施）

8月の研修をもとに、各学級から児童生徒1名を抽出し、自立活動の「流れ図」の作成を試みた。学級担任と学部所属の職員がチームを組み、複数の目で、児童生徒の実態を捉えたことで、中心的課題の決定をよりの確に、より具体的に行えることを経験した。また、ポスター発表形式で、全校職員で「見合う会」を行ったところ、作成に当たりどのような点で悩んだのか、中心的課題はどのように決定したのかなどの情報交換が積極的になされた。さらに、そのことを通して抽出した児童生徒への理解が深まった。



(3) 各全校授業研究会の実施

本校では、下記の日程で3回の全校授業研究会を実施した。

第1回全校授業研究会 9月10日(火) 提示授業：中学部「保健体育科」


第2回全校授業研究会 11月13日(水) 提示授業：小学部「国語科」

第3回全校授業研究会 12月3日(火) 提示授業：高等部「職業科」

3回の研究協議会で検討された意見と指導助言を以下に記す。

①第1回全校授業研究会 9月10日(火) 提示授業：中学部「保健体育科」

題材名 : 能代甲子園！ベースボール大会をしよう！	
全校 研 の 協 議 で 出 さ ら に た 良 意 見 の ま と め	<p>○工夫されたルールで、全員が参加できていた。</p> <p>※ルールが完全に決まっておらず、生徒も教師も一緒になって「どうやったら楽しめるか」を考えながら進める余地が残っていた。そのため、生徒が意見を出し合いながら参加することができていた。</p> <p>○限られたスペースでも、活動量が確保されていた。</p> <p>○生徒達が見通しをもって自分から活動していた。楽しんでいた。</p> <p>○お互いが認め合う場面があった。</p> <p>○技術が身に付くような教材教具の工夫がされていた。</p>
	<p>●ねらい・めあての絞り込みとより具体的な目標設定</p> <p>※生徒が自分の目標とすることが分かるような工夫があればよい。</p> <p>※練習内容に応じたグルーピングとゲームのグルーピングを分けても良かった。</p> <p>●ゲームを通して、生徒同士でルールを考える場面の工夫</p> <p>※想定外のことが起こった場面(ボールが外に出た、アウトボックスを持ってしまったなど)を、生徒の話合いの場面とし、生かすことができたのではないかな。</p> <p>●友達のいいところに気付く場面をつくる工夫</p> <p>※良さの共有の場、生徒自身の言葉で語る場を設定する。</p> <p>●振り返りの進め方の工夫</p> <p>※即時評価を取り入れる、有効活用する。</p> <p>※教師対生徒の一对一のやりとりを周りに広げる・つなげる工夫をする。</p> <p>●打撃が難しい生徒への配慮と技能向上に向けての工夫</p> <p>※ボールの大きさ・アウトボックスの改良、ガイドの設置、特別ルール導入 など</p>

指 導 助 言	<p>1 系統性・連続性について</p> <p>・小学部から高等部までの系統性、中学校の学習指導要領との連続性を踏まえて教科の指導を考えること。</p>	
	<p>2 段階の理解</p> <p>・特別支援学校中学部の目標が2段階となったことをよく考えてほしい。それとともに、一人一人の指導内容や目標を確認し、何を、どのように学ぶかを明確にしてほしい。また、授業において学ばせたいことをしっかりと検討してほしい。</p>	
	<p>3 「生涯にわたる心身の健康の保持増進や豊かなスポーツライフの実現」を視野に入れた指導</p> <p>・全体的に「運動する・全くしない」の二極化傾向にある。心と体を一体と捉えた指導を行ってほしい。</p>	

4 次時への見通し

- ・次時への見通しとなるように、振り返りを有効活用してほしい。また、生徒の発言を生かし、より深められるようにしてほしい。

②第2回全校授業研究会 11月13日（水） 提示授業：小学部「国語科」

題材名 : やさいのせんせいになろう！

全校
研究
の
協
議
で
出
さ
ら
に
良
く
見
る
ま
と
め

- 実感、実体験を伴った理解と表現の機会が保障されていた。
 - ※見るだけでなく、実際に触る、食べる、においをかぐなど、様々な実体験を重ねられる工夫があった。
 - 前時まで学んだことが振り返られる環境であったことや繰り返し学習していたことなどから、見通しをもって取り組んでいた。
 - お互いが出した意見を認め合う場面があった。
 - 子どもから発せられた言葉を丁寧に拾い、つなげていた。
 - 学びやすい配置、グループ編成であった。
-
- まとめとめあてのより具体的な設定
 - ※子どもたちからどんな言葉を引き出したいのかを決めておくことで、まとめだけでなく、振り返りの仕方やめあての立て方までもが変わってくる。
 - まとめの多様化
 - ※子どもたち一人一人の感じ方は違うため、同じ物を取り上げても感じ方は違う。まとめは、子ども一人一人の言葉で行うことが大切。
 - 野菜クイズのレベルアップ
 - ※今回は野菜を実際に見て、触って、確かめて言葉にしていたが、これまで学習した言葉を使ってどんな野菜に当てはまるかを考える活動を行ってみると、前時の振り返りや知識の定着やにつながるのではないかと。

1 教科指導のキーワード（5点）の確認

指
導
助
言

【キーワード】

- ①個々の実態をしっかりと押さえる
- ②教科指導の段階を押さえる
- ③それぞれの子どもたちが目指す資質・能力は何かを押さえる
- ④教科の指導内容を、生活に即した具体的な活動を通して指導していく
- ⑤他の教科や合わせた指導と関連付け、子どもたちの生活に返していく



2 国語科について

- ・国語は、言葉を通じた理解や表現、言葉そのものを学習対象としているので、全ての学習の基盤となる教科である。言葉を育てることを大切にしてほしい。
- ・国語は、知識・技能、思考・判断・表現、それぞれを単独で学んでいくものではなく、相互に関連付けて指導していくことが大切である。検討してほしい。

3 教科の特徴

- ・教科の特徴は系統性である。それぞれの内容、指導項目を系統的に計画、指導してほしい。

4 本授業で身に付けたい資質・能力の具体化

- ・本時の授業、題材を通し、どのような資質・能力を身に付けたいのかを具体化する

ることが大切。「言葉を増やしたい」のか、「色や形の概念を育てたい」のかなどがはっきりするだけでも迫り方が違ってくるため、再検討をお願いしたい。

③第回全校授業研究会 12月3日(火) 提示授業：高等部「職業科」

題材名：後期校内・職場実習事後学習

～働くための自分の課題と、その改善策を見付け出す～

<p>全校研の協議で出された意見</p>	<p>○学習の流れが分かり、自分たちで進めていた。 ※緊張もあったが、繰り返しの活動で、流れが分かり、落ち着いて進めていた。 ※司会用の教具が工夫され、自分たちで授業を進行することができていた。</p> <p>○3年生からのアドバイスが良かった。 ※「1年生」と「3年生」の関係性が良いと感じた。 ※実体験を伴う3年生から話を聞くことで、より自分のこととして考えることができていた。また、アドバイスした3年生側にも学びがあった。 ※1年生の「先輩の話を聞こう」とする姿勢ができていた。</p> <p>○教師の介入の仕方が良かった。 ※何に気付いてほしいか、何を話し合っしてほしいか、端的に伝えていた。 ※先輩の話をより自分のこととして考えられるように、生徒の様子を見ながら、必要に応じてかみ砕いて伝え直していた。</p> <p>○実態に応じたワークシートが用意されていた。</p>
<p>のさらよめるために</p>	<p>●「自分の作戦」をより具体的に、実感をもって考えていくための手立ての工夫 ※机上で考えるだけでなく、考えたことをやってみて(ロールプレイの取り入れ)、どうだったかを再検討するという活動があっても良かったのではないかな。 ※「自分の作戦」を予め考えてから、先輩の話を聞く活動を設定しても良かったのではないかな ※職業科の時間だけで目標を達成するのではなく、日常生活で生かす・実践するという視点も生徒に感じてもらう工夫をするとよいのではないかな。</p> <p>●ワークシートの改善 ※実態別に作られてはいたが、情報量がまだまだ多いのではないかな。書くだけで時間を終えてしまった生徒もいたので、情報量や書く量の精選を検討したらどうか。</p> <p>●1年生の思考を深めるための手立て ※「先輩のアドバイスを聞く」→「自分の目標を考える」→「考えたことを発表する」で終わっていたため、その後、発表した意見についてもう一度自分たちで考える時間があっても良いのではないかな。</p> <p>●グルーピングの工夫 ※「実態に応じた」「共通課題のある」「自分たちで話し合いを進める」など、身に付けた力に応じてグルーピングを検討したら良いのではないかな。</p> <p>●課題の取り上げ方の検討 ※その生徒の「課題」ばかりが強調されていたように感じた。「課題」と「良さを伸ばす」視点をバランス良く取り上げられるようにしたらよいのではないかな。</p>

1 自己理解について

- ・自己理解は大人にとっても難しい。他者とのやりとりを通して、自分のことを少しずつ理解していく。今日のような授業の組立は有効である。

**2 単元構成について**

- ・「気付いて」「考えて」「日常生活の中で実践をして」「また振り返る」ということが有効である。今日決めた・選んだ・書いたことを、日常生活で実践をしていく中で気付く、確認していく取組が大切である。
- ・「主体的・対話的で深い学び」は1単位時間で実現するものではない。そのことをしっかり踏まえて進めていくことが大切である。

3 教材教具、環境、教示や指示のタイミング・量 等について

- ・準備した教材（ワークシートやめくりなど）がどれくらい必要なのか、その活動にふさわしいのか、いつ使うのかといったことを再検討してほしい。活動に応じた教材や環境としてほしい。
- ・教示や指示で、一度に複数のことを話していないか。自分の言葉選びを検討してもらいたい。
- ・「分かりましたか？」という問い掛けは特に気を付けたい。
- ・いつヒントを出すのか。生徒の様子をしっかりと見取り、学びの機会を奪わないようにしてほしい。

4 やりとりの質について

- ・生徒は他者とのやりとりを通して様々なことを身に付けていく。自己肯定感が低い子もいるかもしれない。その子に対しては土台（自己肯定感、自己有用感など）をつくってあげる時期。土台がなければ柱は立たない。土台づくりという点からやりとりの質は大事にしてほしい。

5 評価について

- ・選択できない子、書けない子がいた。様々な理由があると考えられる。それに対して私たちは丁寧にやりとりをして把握・推測し、その子の実態に応じた学びを提供していくことが大切。
- ・「分からない」「書けない」がいけないことではない。「質問してもいいよ」「よく質問したね」ということをやりとりの中で価値付け、教えていくことを大事にしてほしい。

6 学びの共有について

- ・学びの共有はできているのか。教師との一対一の学びになっていないか。共有するための具体的なアイデアも協議の中で出てきていたので、参考にしてほしい。

7 職業科の授業について ～学習指導要領の確認を通して～

- ・新学習指導要領の理解を深めてもらえるようお願いする。能代支援のこれまでの日々の指導で蓄えてきた指導方法・ノウハウは宝であるが、新学習指導要領の観点から再整理し直す必要がある。
- ・職業科では、将来の職業生活に向けた土台づくりが大切。「働く」ということが「自己実現、社会貢献として価値がある、そして、自分は今そこに向かって学んでいる」ということを押さえた上で、（自分の）課題は何かという学習に向かっ

てほしい。順番がどうなのか。土台づくりが先か、柱を立てるのが先か。ぜひ吟味してほしい。

8 使用する言葉・文言について

- ・「〇〇できなければ、△△できないよ」というアドバイスがあった。その人は克服できたからこそ話していると思うが、聞いた人はどう思うだろうか。恐怖心をおおっているように聞こえてしまわないか。
- ・資料として掲載されていたチェックシートの文言で気になる表記はないか。例えば「立ちっぱなしの仕事ができる」「細かい作業ができる」などはどうか。「立ちっぱなし」ができないと一般就労ができないとするなら、車椅子の生徒はどうなのか。また、不器用で「細かい作業」ができないとすれば、一般就労はできないのか。弱点克服に陥らないように、合理的配慮に基づいた文言の再確認をお願いしたい。

Ⅱ 各学部・寄宿舍の研究

小学部

小学部の実践 ～国語科の取組を通して～

1 国語科を通して目指す姿

小学部では昨年度、国語科を取り上げて授業づくりを行ってきており、題材構成や環境設定、教材の工夫を行うことで、自分の言葉で思いを伝えようとする姿、友達の発言を聞こうとする姿、学習に意欲的に取り組む姿、友達をまねたり異なる意見を取り入れたりする姿などが見られるようになった。これらの姿から、児童の表現する力が伸びてきたと言える。

今年度は昨年度の研究成果や、小学部の児童の実態、学部目標などから、児童の表現する力をさらに伸ばしたい、そのためには国語科の授業改善を通してその力を育む必要があると考えた。加えて、国語科は全ての学習活動の基盤となる教科であること、全学年が共通して取り組むことのできる教科であることから、今年度も継続して国語科を取り上げることとした。

小学部では、国語科で特に育みたい資質・能力を「自分の気持ちや考え、意思などを自分なりの方法で表して伝える力」と捉え、国語科のこの力を発揮できる児童の姿を目指して授業づくりに取り組んできた。

2 授業改善の工夫と児童の様子

題材名「やさいのせんせいになろう」

題材の要旨・特徴

小学部では低学年団・高学年団に分かれた中で実態別グループ編成を行い、合計6グループで学習を実施している。ここでは高学年団の1つのグループについてまとめる。このグループは、主に小学部学習指導要領国語科の2段階の目標と内容を学習する児童たちである。

本グループは知的障害の児童、自閉傾向のある児童、肢体不自由を有する児童がおり、言葉や身振り、指差しなどで自分の気持ちを伝えようとするが増えてきている。しかし、語彙の不足や言葉の遣い方の課題などが見られる。

本題材では、事物の特徴を捉えてそれらを表現する言葉を覚えたり、覚えた言葉を遣いながら自分なりの方法で他者に事柄や気持ちを伝えたりする力を育むことを目指している。前題材では果物を取り上げて学習活動を行ってきており、本題材は前題材から特徴を表す言葉を増やしてステップアップした題材となっている。児童にとって身近で関心があり、栽培や収穫経験のある野菜を取り上げること、野菜の観察や試食などの体験的な学習活動を設定すること、前題材である果物を取り上げた学習活動の学びを生かし深めることができることから、本題材を設定した。

【野菜の名前当てクイズの様子】



【野菜の形を考えている様子】



(1) 指導計画の改善（主体的・対話的・深い学びの視点での題材構想）

〈検討前の題材設定〉

次	学習活動	時数
一	クイズをつくろう① ・食べ物や身近な物などのスリーヒントクイズを作ったり、クイズに答えたりする。	8
二	クイズをつくろう② ・動物や乗り物などのスリーヒントクイズを作ったり、クイズに答えたりする。	10

改善

〈検討後の題材設定〉

次	学習活動	時数
一	くだもののせんせいになろう ・果物を触ったり食べたりして特徴を調べ、まとめる。 (りんご、バナナ、桃等 8種類の果物)	8
二	やさいのせんせいになろう ・野菜を触ったり食べたりして特徴を調べ、まとめる。 (かぼちゃ、大根、ねぎ等 12種類の野菜)	12
三	クイズをつくろう ・調べてきた野菜の特徴を振り返り、クイズを作る。 ・クイズを出題する。	4

【問題点】

- ①国語科としてのねらいが曖昧である。
- ②児童全員が主体的に取り組める題材や、学んだことが十分に定着できる時数設定になっていない。
- ③体験的な学習活動や生活に即した学習活動が少ない。

【改善したポイント】

- ①児童の実態の再把握、国語科としてのねらいや指導内容の再検討
- ②段階的で発展性のある題材設定
- ③五感を使った体験的な学習活動を取り入れた題材の設定

改善ポイント① 児童の実態の再把握、国語科としてのねらいや指導内容の再検討

- ・児童の実態を教科の面から段階的に捉え、その段階の児童にどのような指導内容が適しているのかを明らかにするために、「学習到達度チェックリスト」を用いた実態の再把握を行った。
- ・国語科としてのねらいや指導内容を学習指導要領で確認し、小題材ごとのねらいを明確にした。

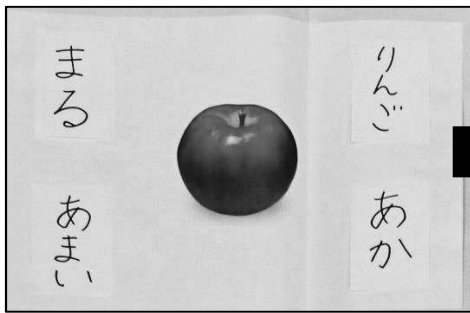
- ・「学習到達度チェックリスト」を用いたことで、児童の実態を多面的な視点からより明確に把握できた。また教師間で共有し、児童の実態に即した題材設定につなげることができた。
- ・国語科としてのねらいや指導内容を学習指導要領で確認することで明確にし、それらを教師間でしっかりと共有しながら題材の設定を行うことができた。

改善ポイント② 段階的で発展性のある題材設定

- ・題材として取り上げる食材を、児童にとって身近で関心のある、「果物」と「野菜」に絞った。
- ・学習を段階的に積み重ねられるように、色や形、味などの特徴が比較的明確な「果物」を1つ目の題材として、「果物」より特徴が多岐にわたる「野菜」を2つ目の題材として取り上げた。
- ・児童が見通しをもって学習して知識として定着できるように、繰り返し学習できる題材設定の見直しを行った。

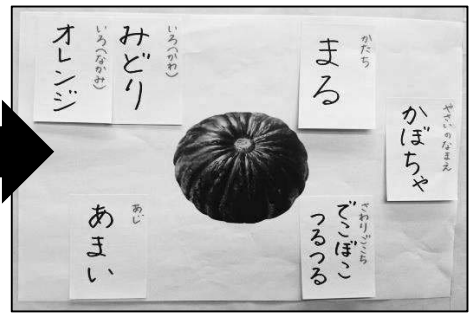
- ・身近な「果物」と「野菜」に関心をもち、全員が意欲的に取り組むようになった。
- ・「野菜」を取り上げた学習の中で、「果物」のときの学習を思い出して「○○と同じだ」「△△みたい」とこれまで学んできたことと結び付けて話す様子が見られた。
- ・繰り返しの学習によって適切な話し方が定着しつつあり、表現する言葉の種類が増えたり、教師からの質問の意図を理解し、答えを思考して答えたりすることができるようになってきた。

【題材1「果物」の掲示物】



・「触り心地」
が追加
・「色」や「形」
が複数化

【題材2「野菜」の掲示物】



改善ポイント③ 五感を使った体験的な学習活動を取り入れた題材の設定

- ・じっくりと見る、触る、食べるなど、五感を十分に使って「果物」や「野菜」を観察する場面を取り入れた題材を設定した。
- ・五感を使って「果物」や「野菜」をじっくりと観察することで、児童がより意欲的に学習に取り組むようになった。自分から「これ知ってる」「甘い」「つるつる」と発言をしたり、「線がある」「穴が開いている」などと新たなことに気付いたりする様子が見られた。

(2) 学習過程の改善 (主体的・対話的・深い学びの視点での授業づくり)

〈検討前の学習過程〉

時間(分)	学習過程
1	1 始めの挨拶をする。
5	2 野菜の名前当てクイズをする。
15	3 本時の野菜について、気付いたことや考えを話す。
15	4 野菜の観察や試食などをする。
8	5 本時のまとめをする。
1	6 終わりの挨拶をする。

〈検討後の学習過程〉

時間(分)	学習過程
1	1 始めの挨拶をする。
4	2 野菜の名前当てクイズをする。
5	3 前時の振り返りをする。
20	4 本時の野菜について知る。
5	5 本時の野菜の観察や試食をし、気付いたことや意見を話す。
5	6 今日の野菜についてまとめる。 ・「名前」、「色」、「形」、「触り心地」、「味(食感)」のキーワードに沿って言葉を整理する。
9	7 個別に振り返りをする。 ・プリント ・視線入力装置
1	8 終わりの挨拶をする。

改善ポイント①
改善ポイント②、③
改善ポイント④

【問題点】

- ①これまでの学習を振り返る場面や生かす場面が少ない。
- ②児童の思考を促したり、表現する言葉を増やしたりするための働き掛けが少ない。
- ③他者との学び合いの場面が少ない。
- ④児童一人一人の学びを振り返る場面がなく、学びを実感できるまとめになっていない。

【改善したポイント】

- ①学習してきたことが分かる掲示物や教材の提示
- ②児童の発言の視覚化、言葉とその意味を結び付ける教材の提示、発問の工夫
- ③ペアリングを工夫し、やり取りをしながら学習する場面の設定
- ④全体で意見を整理したり共有したりするまとめと、一人一人の実態やねらいに応じた振り返りの場面の充実

改善ポイント① 学習したことが分かる掲示物や教材の提示

- これまで学習したことをまとめた掲示物を提示し、振り返る場面を設定した。



- 前時までの学習内容をまとめた掲示物に注目することで、これまで学習したことを想起して「〇〇と同じ」と発言したり、掲示物の中から自分で手掛かりを探して質問に答えたりするようになった。

【野菜の掲示物】



【前時の振り返りの場面】



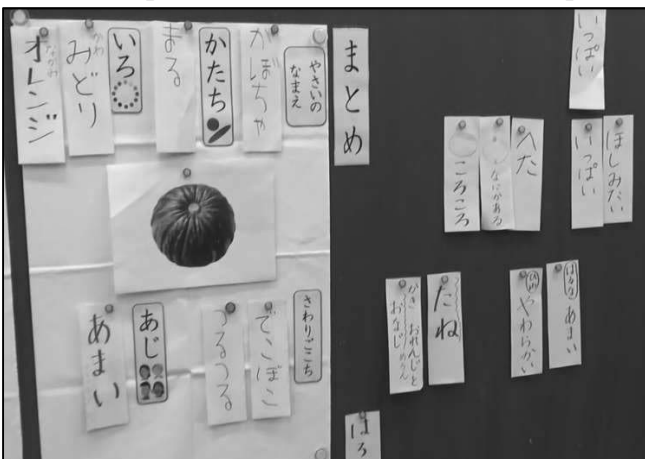
改善ポイント② 児童の発言の視覚化、言葉と意味を結び付ける教材の提示、発問の工夫

- 児童の発言やつぶやいた言葉を短冊に書き留めて黒板に貼り、全体で共有するようにした。
- 野菜の表面に触れた際の「ざらざら」「つるつる」などの感覚と言葉を結び付けるために、具体物（実物、感触の見本の教材）を触りながら言葉を話す場面を設定する。
- 児童の個々のねらいに沿って、色や形、味や触り心地などの発問を個別に行った。



- 発言を視覚化し全体の場面で共有することで野菜の特徴を表す言葉に触れた。友達が発言した言葉を復唱して覚えたり、発言が書かれた短冊を手掛かりにして自分から積極的に発言したりするようになった。
- 触り心地や味などについて、具体物を触ったり実際に食べたりしながら言葉で表すことを繰り返したことで、「甘い」「つるつる」などの言葉を自分から使って野菜の特徴を表すようになってきた。
- 最初は「形は？」→「赤」とちぐはぐに答えていた児童が、学習を積み重ねることによって、「形は？」→「細長い」といったように正しく答えられるようになった。身近な物事概念とそれを表す言葉が結び付いてきたと考えられる。

【児童の発言やつぶやきを視覚化】



【かぼちやの感触を確かめる場面】



改善ポイント③ ペアリングを工夫し、やり取りをしながら学習する場面の設定

- ・児童の実態やねらいに応じて、児童同士のペアで、または教師とのペアで、やり取りをしながら学習する場面を設定した。



- ・児童同士でペアになって学習した児童からは、「線あるよ。」「へたあるよ、ほら。」などと気付きを発言し合いながら学習をする様子が見られた。ペアでの活動の場面を設定したことで、友達の発言をよく聞くようになり、友達の意見に同意をしたり、自分と異なる意見を受け入れて意見を変えたりするようになった。
- ・教師とペアになった児童は、じっくりと野菜を観察し、自分から「丸い」「緑」と話したり、気になる部分を指差しや発声で伝えたりした。

【ペアで学習する様子】



【教師とやり取りして学習する様子】



改善ポイント④ 全体で意見を整理したり共有したりするまとめと、一人一人の実態やねらいに応じた振り返りの場面の充実

- ・本時で取り上げた野菜の「名前」「色」「形」「味（食感）」「触り心地」についての発言を整理・共有する場面を設定した。
- ・全体でのまとめの後に、一人一人の実態やねらいに応じたプリントや視線入力装置を使用し、振り返りをする場面を設定した。

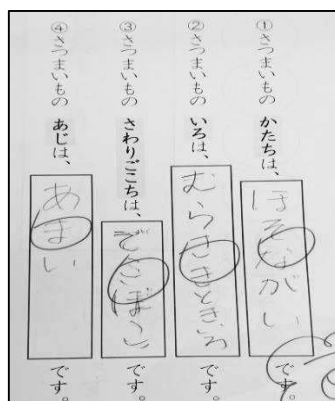


- ・発言を全体で共有する場面を設定したことで、友達の意見に注目する様子が見られた。友達の意見を聞いて同意したり意見を変更したりする様子が見られた。「触り心地」や「色」などの項目で複数の意見が出た際は、再度全員で実物の野菜を見たり触ったりして確認する場面を設定することで、自分の意見を再考することができた。
- ・実態に応じたプリントを用いることで、板書を手掛かりにしたり、自分で言葉を選んだり考えたりしながら、振り返りをする事ができた。

【全体で意見を再考している場面】



【振り返りのプリント】



【視線入力装置を使った振り返り】



「国語科を通して目指す姿」を育むために

今年度の実践を通して、小学部の国語科の授業で大切にしたいことは

- ①言葉や文字で表現したくなる題材の設定
- ②言葉を動作化・視覚化
- ③五感を活用した学習活動の設定
- ④気付きや発言の共有

が大切であると考えている。

3 実践の成果

今年度、国語科における主な実践は以下の点である。

- ・実態把握：「学習到達度チェックリスト」を用いて実態把握を行ったことで、児童一人一人の国語科のねらいが明確となった。
- ・題材構成：身近なものを題材として取り上げ、体験的な活動を取り入れたり毎時間の学習活動の流れを同じにしたりすることで、児童が見通しをもって主体的に取り組むことができた。また、繰り返し行える題材を設定したことで、授業での学びの定着を図ることができた。
- ・学習過程：言葉の意味や使い方を確認する場面や友達と学び合う場面の設定、発問の工夫などを行うことで、新しい言葉を覚えたり、新たな気付きを促したりできた。また、掲示物の工夫や効果的な振り返りの場面設定を行うことで、学習した内容を定着させることができた。

これまでの実践から、児童に以下の変容が見られた。

- ・形や色などを表す言葉、触り心地や味などの抽象的な感覚を表す言葉などの意味を理解し、それらの言葉を使った発言が見られるようになった。 【言葉の理解、拡充】
- ・友達や教師の発言に注目して聞くようになり、その発言に対して答えたり復唱したりするようになった。 【他者の意見への気付き】
- ・「〇〇と同じ」「形と色は同じだけど、味は違う」などのように、これまで学習してきたことを使って、身近な物事を表現するようになった。 【意見の比較】
- ・言葉の意味や使い方を知り、具体物や掲示物を手掛かりにして、気付いたことや考えたことを自分なりの言葉や発声、身振りなどで表すことができるようになった。また、自分と異なる意見を聞いて意見を再考するようになった。 【意見の構築、表出】
- ・普段の生活でも複数の言葉を組み合わせて話したり、教師の質問の意味を理解し、考えてから答えたりするようになった。自分の考えを言葉や発声、身振りで積極的に表現することや、相手に分かりやすく伝えようとする場面が増えてきている。 【日常生活場面での活用】

4 今後の取組

- ・児童の実態を正確に多面的に把握するために、共通の指標（学習到達度チェックリスト等）を用いて、担当職員間、学部職員間で実態把握を行い、共通理解をする。また、定期的に評価の機会を設定する。
- ・児童一人一人の国語科のねらいや題材の検討会、評価会などを、定期的に行う。
- ・児童の学習意欲の向上や生活の中で生かせる国語科の力を伸ばすために、児童の関心のある身近なものを題材として取り上げ、体験的な活動を設定する。
- ・学部職員全員で国語科の授業改善ができるように、国語科を見合う会（週間）や教材展示会を設定し、授業改善へとつなげる。

出典『障害の重い子どもの目標設定ガイド

～授業における「学習到達度チェックリスト」の活用～』

（徳永豊、2015、慶應義塾大学出版会）

※本研究において参考としたチェックリストを資料として添付する。

小学部5・6年 国語科 学習指導案

日 時 令和元年11月14日 9:45～10:30
 場 所 小学部5・6年教室
 授業者 加藤茜 (T1) 高橋正義 (T2)

1 題材名 やさいのせんせいになろう

2 題材の目標

知・技	身近な食べ物の特徴を表す事柄(名称、色、形、味など)について知る。
思・判・表	身近な食べ物の特徴について気付いた事柄を自分の得意な方法(言葉や文字、手指や体の動きなど)で表す。
主	自分の得意な方法で野菜を観察し、分かったことを身近な人と伝え合ったり、クイズを出したりしようとする。

3 児童と題材について

本学習グループは、5・6年生の男子2名、女子2名、計4名で構成されている。自閉傾向にある児童、車椅子を使用している児童がいる。言葉が増えてきて、身近な人との会話を楽しむようになってきた。前題材では、果物を取り上げ、実物を触ったり実際に食べたりしたこと、物の特徴の捉え方が分かる言葉で表したり、味を「おいしい」だけでなく、「甘い」「酸っぱい」などと表現することができるとなってきた。身近な物事を様々な言葉で表現できるようになってきたが、「先生、バナナ」など、単語だけで伝えようとしたり、「○○は、どんな形ですか?」「○○は、何色ですか?」などの質問に適切に答えることが難しかったりする。

前題材で取り上げた果物や本題材で取り上げる野菜は、児童にとって身近な食べ物であり、興味関心が高い。また、本題材で取り上げる野菜は入手性が良く、生活単元学習で栽培・収穫した経験もある。前題材の学習において、果物の特徴の捉え方や表し方を学んだ。本題材においてもその学び方を継承することで、さらに深めることができる。また、各野菜の観察や試食などの体験的な学習を通じて、物事の特徴とそれを表現する言葉を整理して結び付けたり、知識として理解したことを自分の得意な方法で表現したりすることができる。考える。

さらに、これまでの学習経験を生かし、身近な人にクイズを出題する機会を設定することで、これまでの学習経験を振り返って、自分の伝えたいことを整理したり、伝わるような表現を試みたりする機会になるのではないかと考え、本題材を設定した。

指導に当たっては、次の点に留意する

- ・これまでの学習内容を振り返るとともに、本時の学習における物事の特徴を捉える手掛かりになるように、前時までに学習した内容を壁面に掲示したり、様子と表す言葉に合致する具体物を用意したりする。
- ・身近な概念を言語化できるように、野菜を観察したり、試食したりする体験的な活動を行う。
- ・観察や試食を通じて児童たちから多くの気付きが出されたときには、大いに称賛する。また、基本的な知識の定着につなげることができるよう、「名前」「色」「形」「触り心地」「味」の5つのキーワードを提示する。
- ・感覚的な感じ方には個人差があるため、自分や友達の感じ方や意見を聞き、認め合う場面を設定する。
- ・友達の発言を聞くことや体験的な活動を行うことで児童の気付きや新しい発見を引き出すことができるように、観察や試食における児童と教師のペアリングを工夫したり、児童の発言を学習に生かしたりする。

4 指導計画 (総時数 16 時間)

次	小題材名	観点	目標	時数
一	みんなのでやさいをしらべよう	知・技 思・判・表	野菜の特徴を表す事柄(名称、色、形、味など)について知る。 野菜の特徴について知った事柄を自分の得意な方法(言葉や文字、手指や体の動きなど)で表す。 自分の得意な方法で野菜を観察し、分かったことを身近な人と伝え合おうとする。	12 時間 本時 10/16 時間
二	やさしいクイズをつくらう	知・技 思・判・表	野菜の特徴を表す事柄(名称、色、形、味など)について振り返る。 野菜の特徴について知った事柄を基にしてクイズを作る。 クイズの作成や出題を通じて知ったことを身近な人に伝えようとする。	4 時間

5 本時の計画 (総時数 16 時間中の 12 時)

(1) 全体の目標	
知・技	かぼちやの特徴を表す言葉を知る。
思・判・表	かぼちやの特徴について気付いた事柄を自分の得意な方法(言葉や文字、手指や体の動きなど)で表す。
主	自分の得意な方法でかぼちやを観察し、分かったことを身近な人と伝え合おうとする。

(2) 個別の目標

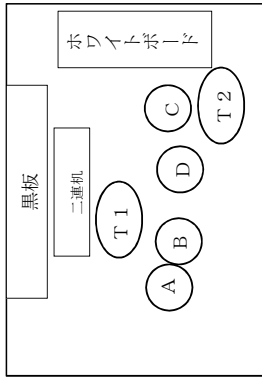
氏名	本題材に関する 児童の実態と様子	本時の目標 (本時、特に達成したい観点を絞り表記)	
		題材の目標	観点
A	<ul style="list-style-type: none"> 前時までに学習した内答を思い出ししながら、題材に興味をもって観察する。 語彙は増えてきているが、身近な人に伝えたことを単語だけで伝えようとする。 身近な事柄の質問に関しては、質問の意図を理解して答える。 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の観察を通じて特徴に気付かき、言葉で表現する。 野菜の特徴を表現する言葉を用いて 3 語文の短文を作る。 前時までの題材の観察方法を思い出し、自分から観察に取り組みようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の観察を通じて、野菜の特徴を表す事柄と語句などを結び付ける。 質問されたことに、自分の知っている言葉から一問一答で答える。 五感(視・聴・嗅・味・触)を使って野菜の観察しようとする。

氏名	本題材に関する 児童の実態と様子	本時の目標 (本時、特に達成したい観点を絞り表記)		
		題材の目標	観点	
B	<ul style="list-style-type: none"> 題材の色彩や味覚が気になる。 身近な人との会話に興味をもっている。語彙は増えてきている。相手からの質問にスムーズに答えることが難しい。 書字に興味がある。見聞きしたことを平仮名や漢字で書こうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の観察を通じて、野菜の名前が分かり、教師の言葉に続けて発音したり、一人で発音したりする。 野菜の色や形、味などの事柄について、視線入力装置で提示した 2 つ程度の選択肢から選んで答える。 五感(視・聴・嗅・味・触)を使って教師と一緒に野菜の観察しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達か野菜の観察を通じて気付いた言葉を受け止めて、自分で観察すること、事柄と特徴を結び付ける。 野菜の特徴に関する教師からの質問に対して、2 語文程度で答える。 友達の発言を聞きながら、野菜の特徴を観察しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の質問の意図が分かかって、観察したかぼちやの特徴を答える。
C	<ul style="list-style-type: none"> 手指を使った観察に非常に興味をもって取り組んでいる。友達の手ぶやきを聞くと、自分でもその状態を確かめようとして熱心に観察をする。 身近な物事に関する知識が断片的であるが、繰り返し学習することによって定着が図られる。 視線の動きが良好で意思伝達の手段として活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の名前が分かり、教師の言葉に続けて発音したり、一人で発音したりする。 野菜の色や形、味などの事柄について、視線入力装置で提示した 2 つ程度の選択肢から選んで答える。 五感(視・聴・嗅・味・触)を使って教師と一緒に野菜の観察しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の名前が分かり、教師の言葉に続けて発音したり、一人で発音したりする。 野菜の色や形、味などの事柄について、視線入力装置で提示した 2 つ程度の選択肢から選んで答える。 五感(視・聴・嗅・味・触)を使って教師と一緒に野菜の観察しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察したかぼちやの特徴を思い浮かべて、かぼちやの色や中の様子について、選択肢から選んで答える。
D	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事象に対し感覚的に観察する。観察対象の特徴を表す事柄に言葉添えて説明すると理解が図られる。 身近な人からの質問に対して簡潔な言葉で答える。答え方が分からない質問に対してはオウム返しをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の観察を通じて、野菜の特徴を表す事柄と語句などを結び付ける。 質問されたことに、自分の知っている言葉から一問一答で答える。 五感(視・聴・嗅・味・触)を使って野菜の観察しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の観察を通じて、野菜の特徴を表す事柄と語句などを結び付ける。 質問されたことに、自分の知っている言葉から一問一答で答える。 五感(視・聴・嗅・味・触)を使って野菜の観察しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> かぼちやの観察を通じて、かぼちやの特徴を表す事柄と語句などを結び付ける。

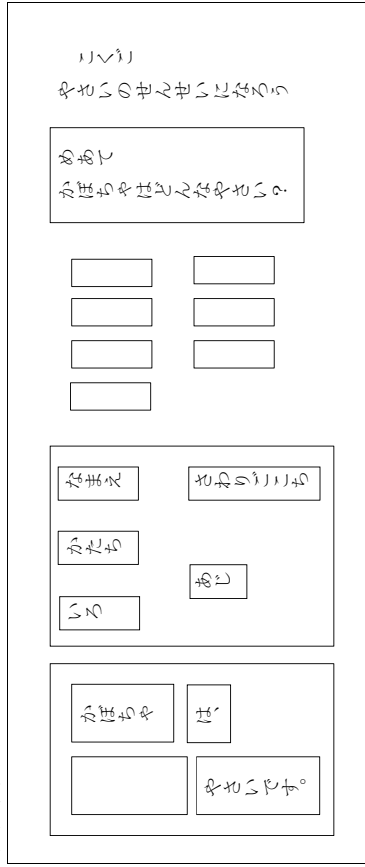
(3) 学習過程

時間(分)	学習活動	手立て・指導上の留意点	準備物
9:45 (5)	1 挨拶をする。 2 野菜クイズをする。	・良い姿勢で挨拶ができるように、姿勢が良い児童を称賛する。 ・児童が注目できるように、カードの出し方を工夫する。(T1) ・手を挙げて発表することを確認する。(T1)	・野菜カード ・はてなボックス
9:50 (5)	3 前時の振り返りをする。 4 今日の野菜とめあてを確認する。	・本時の思考の手掛かりとなるように、色や形などのキーワードで振り返る。 ・題材に興味関心がもてるように、模擬の畑を用意して、児童に収穫してもらおう。	・模造紙 ・付箋 ・かぼちゃ ・模擬の畑
9:55 (20)	めあて かぼちゃはどんなやさい？ 5 野菜について調べる。 ・じっくり見る、触る(ペア、個人) ・断面を見る(一斉) ・食べる(一斉)	・Bが野菜の特徴を捉えることができるように、AとペアにしてAの発言を聞くことができるようにする。 ・Cが野菜をじっくり観察することができるように、野菜が目線の高さになる台を用意する。(T2) ・Dが感じたことと言葉結び付けることができるように、「でかぼこしているね」と表現の仕方を伝える。(T1) ・児童の気付きを短冊に書いて文字化する。(T2)	・短冊 ・ペン ・タイマー ・試食用かぼちゃ
10:15 (5)	6 まとめをする。	・「名前」「色」「形」「触り心地」「食感」のキーワードでまとめる。 ・Bが教師の野菜の特徴に関する質問に答えることができるように、調べる活動で、「形は丸だね」と確認しながら短冊を確認できるようにする。(T1) ・Aが野菜の特徴を短文で表現することができるように、定型文を用意する。ヒントになる短冊を貼っておく。(T1)	・「まとめ」カード ・模造紙 ・定型文
10:20 (10)	7 振り返りをする。 8 挨拶をする。	・Cが野菜の特徴を答えることができるように、視線入力装置を準備する。選択肢を2つ程度にして提示する。(T2) ・良い姿勢で挨拶ができるように、姿勢が良い児童を称賛する。	・プリント ・視線入力装置

(4) 配置図



(5) 板書計画



(6) 評価の観点

- (児童)・題材(野菜)に対して興味をもち、自分の得意な方法で題材と関わることができたか。
 ・題材(野菜)の特徴を表す事柄を受け止め、自分の得意な方法で身近な人に伝えることができたか。
 (教師)・児童が題材(野菜)に対して興味をもつための提示方法が工夫されていたか。また、児童が題材(野菜)に対して五感(視・聴・嗅・味・触)を働かせて関わるための方法は適切であったか。
 ・児童それぞれの学びの方法に寄り添い、題材を観察することによって受け止めた事柄について整理し、伝え合うための方法は適切であったか。

Ⅱ 各学部・寄宿舎の研究

中学部

中学部の実践 ～保健体育科の取組を通して

1 保健体育科を通して目指す姿

昨年度は中学部の美術科を通して、生徒の意欲の向上や技能の獲得に向けた学習活動の改善に取り組んだ。今年度は、その実践の成果として得られた学習過程を取り入れながら、保健体育科で授業研究を進めることとした。

保健体育科では、「運動の楽しさを知る」「様々な運動の経験を積み重ね、体力向上を目指す」「健康で安全な生活を送るために必要なことを知る」といった生徒の姿を目指し、授業改善に取り組んだ。また、今回の指導に当たっては、教師主導で知識や技術を教え練習させるだけでなく、生徒自身が「自分が上達するためにはどうしたら良いか」「みんなで楽しくゲームをするためにはどうしたらよいか」などについて考えたり、考えたことを伝え合ったりしながら実践・改善を繰り返し、課題解決していく力も高めていきたいと考え指導に当たった。

2 授業改善の工夫と生徒の様子

題材名「能代甲子園！ベースボール大会をしよう！」

題材の要旨・特徴

本校の中学部では1～3年生の男子16名、女子7名の計23名である。自閉的な傾向がある生徒、車椅子を使用している生徒、衝動性が高い生徒がいる。普段の学習では、興味をもった活動や経験をしたことがある活動には参加できるが、見通しがもてない活動や失敗するかもしれないと不安に感じる学習には、なかなか参加できない生徒が多い。

今回、題材として取り上げたベースボール型球技では、打つ、走る、投げる、捕るなど多様な種類の運動がある。そのため、一人一人が自分の得意、不得意な課題を見付けやすいだけでなく、自分に合った目標を設定して練習をしたり、自分の力を生かしてゲームに取り組んだりすることができる。また、練習やゲームの中で、キャッチボールをする、打つ場所や守備位置を決める、どこまで走るか確認するなどにおいて、チーム内でコミュニケーションをとりながら進めなければならない場面が多く、教え合ったり、認め合ったりする姿も育めるのではないかと考える。ベースボール型球技の練習やゲームを進める中で、一人一人自分なりの目標をもって、自分や友達の上達のために、お互いに教え合ったり、認め合ったりしながら、安全に楽しく学習に取り組んでほしいと思い、本題材を設定した。



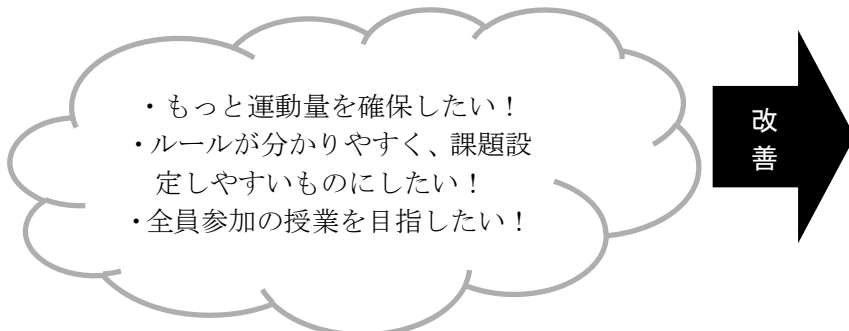
(1) 指導計画の改善（主体的・対話的・深い学びの視点での単元構想）

〈検討前の単元設定例〉

次	学習活動	時数
一	○ニュースポーツ、ボール運動 ・ユニホックやポッチャなどのやり方やルールが分かり、ルールを守って楽しみながらゲームに参加する。 ・ボールを使った運動を楽しむ。	6

〈検討後の単元設定〉

次	学習活動	時数
一	○ベースボールに挑戦しよう ・ベースボールについて知ったり体験したりする。 ・ベースボールの基本的な動きやゲームを体験してみる。	2
二	○能代甲子園に向けて練習しよう (1) 攻撃練習 (2) 守備練習	8
三	○能代甲子園開幕！	4



【現状の課題】

- ① ユニホックは攻守が激しく入れ替わり、自分からボールに触れられる生徒以外の参加が難しい。ポッチャは、全員参加はできるが、十分な運動量が確保できる内容でない。

【改善したポイント】

- ① ボール運動の捉えを広げ、多様な形で挑戦できるものにする。
② 育てたい力や学習活動のねらいを明確にする。
③ 個別の課題を設定しやすいものにする。

ベースボール型ゲーム 目指す姿の具体的なイメージの共有

※指導計画検討会資料

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体
<ul style="list-style-type: none"> ・打撃、捕球の技術を身に付ける。 ・ルールを理解し、ルールに従って、フェアなプレイをする。 ・ゲームの流れを理解し、やり方や順番を覚える。(主) ・周囲の安全に気を付けながら、ボールや道具を操作する。 ・必要な道具や設置場所が分かり、自分たちで準備や片付けをする。(主) 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達にコツを伝えたり、見本を見せたりする。(対) ・上手くできない原因や、必要な練習を考える。(深) ・友達の名前を呼んだり、動きを伝え合ったりしながら、プレイする。(対) ・みんなが楽しんだり、上手くプレイできたりするためにルールや練習方法を提案する。(深・対) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題が分かり、目標を立て必要な練習を選んだり、取り組んだりする。(主) ・上手くできるまで、練習し続ける。(主) ・自分たちで、練習メニューを選んだり、得点計算をしたりして、練習やゲームを進める。(主)

改善ポイント① ボール運動の捉えを広げて考える。

- ・生徒の実態や課題、保健体育科で育てたい力を改めて確認し、ボール運動のゴール型、ネット型、ベースボール型それぞれの良さや課題を確認した。また、ロールプレーを通して予想される生徒の動きや発言に対する対応を職員間で検討した。その結果、全員が授業に意欲的に参加できるように、攻守の切り替えや自分の役割が分かりやすく、投げる、打つ、取るなどいろんな運動の形があり、一人一人の課題を設定しやすく、実態に応じた参加ができるベースボールを取り入れ、ボール運動の枠組みを広げた。(主)



改善ポイント② 運動の楽しさを知り、体力向上を目指す力を育て、技術の向上や勝敗にこだわりのすぎない等の学習活動のねらいを明確にする。

- ・勝敗にこだわるよりも、「自分たちが上達するために」どのような練習をしたら良いか考え仲間と伝え合うことをねらいとした。(対)
- ・勝敗が決まることで不安定になり、自分の感情をコントロールすることが難しい生徒も、自分の得意なことを生かした活躍場面を設定することができ、バッティング練習やミニゲームで授業に参加することができた。
- ・具体的にどんな動きや道具を使ったら、上手くいったのかをチームの友達に話したり、お互いに教え合ったりする場面も見られた。(対)



改善ポイント③ 個別の課題を設定しやすいものにする

- ・攻守の切り替えや自分の役割が分かりやすく、投げる、打つ、取るなど色々な運動の形があり、一人一人の課題の設定や教材教具の工夫がしやすいものになった。(主)

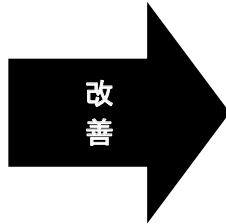


(2) 学習過程の改善 (主体的・対話的・深い学びの視点での授業づくり)

〈検討前の学習過程例〉

時間 (分)	学習過程
10	1 挨拶 2 学習内容を知る ・学習の流れ ・ミニゲーム演示 ・めあて
	3 準備運動 4 チームミーティング①
60	5 練習 ・攻撃練習 (2チーム) ・守備練習 (1チーム)
20	6 チームミーティング②
10	7 片付け 8 振り返り 9 挨拶

攻撃練習、守備練習を1グループずつにし、ミニゲームのためのミーティングを取入れローテーションをした。



〈検討後の学習過程〉

時間 (分)	学習過程
15	1 始めの挨拶をする 2 めあてや活動内容を確認する ・チームミーティング① ・今日がんばることを決める。
	3 準備運動をする <u>チャレンジ1</u> 練習をする I 攻撃練習 II 守備練習 III <u>チームミーティング②</u> ・ミニゲームに向けて
30	4 チャレンジ2 ミニゲームをする
15	5 片付けをする 6 チームミーティング③
	7 めあての振り返りをする 8 挨拶

【現状の課題】

- ① 練習の時間に、攻撃練習と守備練習の2チームずつしか活動できず、残りの1チームの待機する時間が長い。
- ② アクシデントがあった際のとっさの判断やルールが曖昧なために戸惑う部分があった。

【改善したポイント】

- ① チャレンジ1の中にミニゲームに向けた作戦会議として、チームミーティングを増やす。
- ② 生徒の意見を取り入れてルールの改善や整理をする。
- ③ 生徒の実態に応じた教材教具の工夫

各チームミーティングの内容

- チームミーティング①
→個人目標の設定をする
- チームミーティング②
→上達ポイントを伝え合う



- チームミーティング①
→個人目標設定する
- チームミーティング②
→ゲームの作戦を立てる
- チームミーティング③
→・個人目標の評価をする
・練習の上達ポイントを伝え合う
・ゲームの反省をする

改善ポイント① ミニゲームに向けた作戦会議(「チームミーティング②」)の取り入れによる、効率的な練習時間の設定 (対)

○チャレンジ1の練習では、「Ⅰ攻撃練習」「Ⅱ守備練習」のほかに「Ⅲチームミーティング②」を追加し、待機する時間をなくし、グループごとにローテーションできるようにした。
 →練習時間の効率が上がったことで、生徒一人一人の活動量も増え、各グループが流れに沿ってミーティングしたり、練習したりする中で見通しをもって、バランスよく進めることができるようになってきた。

ミーティング①で使用したシート

「能代甲子園」ベースボール大会戦「よう！」					
①	ボールにあてる	離れたところにうつ	とおいにうつ	ひいたボール(フライ)	こるがるボール(ゴロ)
月日					
がんばること					
ふりふり					
◎○△					
◎うまくてきた ○すこしてきた △もずかしかった					

「能代甲子園」ベースボール大会戦「よう！」					
②	ボールにあてる	離れたところにうつ	とおいにうつ	ひいたボール(フライ)	こるがるボール(ゴロ)
月日					
がんばること					
ふりふり					
◎○△					
◎うまくてきた ○すこしてきた △もずかしかった					

ミーティング②で使用したシート



ゲームの作戦は？

- ・ベンチの人がアドバイス◎・素早く動く
- ・バラバラに守る 等

改善ポイント② 生徒の意見を取り入れてルールの改善や整理をする (主・深)

- ・アクシデントや判断に困る状況になった際に、T1 が一つずつ丁寧に事象を取り上げ、生徒たちに考えさせるようにした。実際にやらせてみせ、工夫した動きを引き出し、積み重ねていったことで生徒の言葉を軸に授業を作り上げていくことが、生徒の満足感につながった。
- ・生徒たちから「守備のときにどこまで出てよいかわからない」「ヒットなのかファールなのかわかりづらい」などの意見があった。そこで、新しくファウルラインと守備ラインを設けたこと、ファウルの場合はやり直しをすること、四人で守ることなどを伝え、改善授業に臨んだことで、自分たちの意見がルールに取り入れられた喜びから「やったー」という言葉が出た。
- ・「打った後に塁に向かって走るスピードが上がる」「守る範囲やボールをとった後、どのようにアウトにするかを自分たちで考え、作戦を立てる」という姿が多くなった。



改善ポイント③ 生徒の実態に応じた教材教具の工夫 (主)

- ・打撃が難しい生徒への配慮と技術向上に向けての工夫(異なる長さのティーバー、ガイドの配置、アウトボックスの改良、守備で特別ルールを導入する。)
- ・「私はこれが打ちやすい」と自分のうちやすいティーバーを選ぶことができたり、「赤と青を二個くっつけたら、紫と一緒じゃない？」と練習を続けていく中でためしたりした方法が成功し、喜ぶ姿がみられた。
- ・攻撃練習では、ホームランエリアの印を見ながら、フォーム確認やバッティング練習をしたり、ボールを設置しているティーバーの高さを自分で調整したりするなどの工夫する姿が見られた。

「保健体育科を通して目指す姿」を育むために

- 見通しをもつことができる活動、個々が活躍できる場面の確保ができる指導計画の作成
- チームミーティングの導入（良かった点、活躍場面を即時評価）
→全体への共有→自己肯定感
- 個々の実態に合わせた教材教具の工夫
→自分で試行錯誤できる環境
- 生徒たちの意見、話合いの結果を尊重した学習内容の改善・工夫
→教師と生徒同士が協力や工夫をして上達を目指したり、みんなで楽しくゲームを進めたりしていくという充実感・信頼関係の構築



3 実践の成果

- ・生徒一人一人が、技術向上のために試行錯誤しながら攻撃や守備練習を行ったり、同じグループの友達と一緒にチーム全員で協力して試合を楽しむために、作戦を立てるなど自然な関わりが出てきた。
- ・友達が失敗したとき、良いプレーがあったときには、「〇〇さん、ナイス!」「どんまい!」などと声を掛け合ったり、すれ違いざまにハイタッチをしてお互いを称賛し合ったりする姿が見られた。
- ・実態差が大きく、集団参加が難しい生徒もいる中での学部合同の体育の授業で、全員がその場で意欲的に授業に参加することができた。
- ・ベースボール型ゲームの経験をしたことで、体を動かすことへの意識が高まり、以前より休み時間にスポーツをする生徒や、自主的に体力作りに励んだりする生徒が増えた。
- ・話合い（目標設定、作戦会議）→練習→振り返りの繰り返しのサイクルは学習内容を深めていくために有効的だった。このサイクルを子どもたちが有効的だったと実感できるように、今後も有効な手立てとして取り入れていきたい。
- ・ミーティングの中でルールについて生徒たちから意見が出されて新たなルール作りにつながったり、自分や仲間の頑張りを認め合ったりしたことで、対話を通して学び合う姿や、活動に主体的に取り組む姿が多く見られるようになった。

4 今後の取組

- ・保健体育科の実践の成果を他の指導形態でも実践
- ・授業のねらいに沿った学習活動や教材研究の充実
- ・小学部から高等部までの系統性、小学校の学習指導要領との連続性を踏まえて教科の指導を考えること
- ・教師が意図的に他教科においても、話合い（目標設定、作戦会議）→練習→振り返りの学習サイクルを取り入れるように生徒に働き掛け、次につなげていく。

中学部 1～3年合同 保健体育科 学習指導案

日時 令和1年9月10日(火) 10:30～12:10

場所 体育館

授業者 竹田泰生 (T1) 堀奈美子(T2)
齊藤舞子 (T3) 木村尚 (T4)
佐々木捷吾 (T5) 大塚佳樹 (T6)
泉 拓行 (T7) 加藤美和子(T8)

- 工夫したりするなど、生徒の実態に合わせた用具を準備する。
- 練習やゲームを集団で進められるように、ベースの配置や距離を工夫したり、ミニゲームではチーム全員が打ったら攻守交代としたりするなど、ルールを簡易化したゲームを行う。
- 目標に応じて練習することができるように、複数の練習方法を準備しておく。
- 生徒同士が教え合うことができるように、うまくできるポイントやゲームの進め方について、教師が見本を見せたり、ミーティングシートに書き加えていき、視覚的に提示したりする。
- 目標を定めたり、お互いのプレイを認め合ったりすることができるよう、賞を送り頑張りを称賛する場面を設定する。
- 安全に気を付けることができるように、事前に全体にきまりやルールを明確に示し、教師が審判役となる。

1 題材名 能代甲子園！ベースボール大会をしよう！

2 題材の目標

知・技	ボールやバットなどの操作方法・練習方法・ゲームの進め方が分かる。
思・判・表	目標を決め、上達のポイントを意識して、お互いに教え合ったり、認め合ったりする。
主	用具の正しい扱い方、きまりやルールを守り、友達と安全に気を付けながら繰り返し練習する。

3 生徒と題材について

本グループは、1～3年生の男子16名、女子7名の計23名である。自閉的な傾向がある生徒、車椅子を使用している生徒、衝動性が高い生徒などがある。普段の学習では、興味をもって活動や経験したことがあり自信をもって取り組める活動には自分から参加できるが、見通しがもてない活動や失敗するかもしれないと不安に感じる学習にはなかなか参加できない生徒が多い。

これまでの保健体育では、体力トレーニングやダンスの学習などを行ってきた。教師が見本や例を示すことで、まねて取り組んだり、ダンスの振り付けを自分たちで工夫して考えたりするなどして学習に取り組んできている。また、体を動かすことに関する生徒の興味関心は高い。休み時間になると自分で体育館に向かい、バスケットボールや卓球などに積極的に取り組んでいる。ボールの操作やルールの理解が難しい生徒がいると一部の生徒だけで進めたり、相手の失敗を責めたりする場面が見られることがあるが、一緒に体を動かし、楽しんでいる。

今回、題材として取り上げたベースボール型球技では、打つ、走る、投げる、捕るなど多様な種類の運動がある。そのため、一人一人が自分の得意、不得意といった課題を見付けやすく、目標をもって自分に合った練習をしたり、自分の力を生かしてゲームに取り組みたりすることができる。また、練習やゲームの中で、キャッチボールをする、打つ場所や守備位置を決める、どこまで走るか確認するなどにおいて、チーム内でコミュニケーションをとりながら進めなければならない場面が多く、教え合ったり、認め合ったりする姿も育めるのではないかと考える。ベースボール型球技の練習やゲームを進める中で、一人一人自分なりの目標をもって、自分や友達の上達のために、お互いに教え合ったり、認め合ったりしながら、安全に楽しく学習に取り組んでほしいと思い、本題材を設定した。

指導に当たっては、次の点に留意する

- 生徒が練習に取り組みやすいように、固定したボールを打つようしたり、バットの太さや長さを

(2) 個別の目標

氏名	本題材に関する生徒の実態と様子	単元の目標		本時の目標 (本時、特に達成したい観点を絞り表記)	
		知・技	思・判・表	知・技	思・判・表
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ ダンスが得意でボディイメージ能力が高く、模倣や複雑な動きを覚えることが得意である。身に付けた動作については、友達の動きの改善点を伝えたり、見本を示したりする様子がみられる。 ・ ボール運動では、うまく道具を操作できないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボールを打つときや投げるとき正しい姿勢や構えを身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達に正しい姿勢や構えの見本を見せているところや改善点を伝えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パットやボールの正しい持ち方や構え方を友達と見せ合っって動きを模倣し、自分のやりやすさや飛び具合などを判断する。 	主
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分や友達が安全に練習やゲームができるように、集団のルールを守って練習やゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達に安全に練習やゲームの進め方を教えながら練習する。 		
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昼休みに卓球やバドミントンをするなど球技やスポーツには関心をもって、体を動かす活動には楽しく取り組んでいる。 ・ ソフトボール投げでは、方向と投げ方を意識してボールを投げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 打つ、走る、捕る、投げるなどボールの基本的な操作を覚え、ゲームのルールなどを理解する。 ・ 練習やゲームを進めていく中で、うまくできるポイントややり方を意識して、自分で気付いたり、友達と教え合ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲の安全に気を付けて、用具を正しく扱ったり守って練習やゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲の安全に気を付けて、決められた場所や用具の正しい扱い方を守って練習する。 	主
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達とゲームのルールや動き方を分かち、ゲームを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達とゲームのルールや動き方などを教え合ったり、うまくできるようになったことを認め合ったりする。 		
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体を動かすことが好きで、バドミントンや卓球などラケットスポーツも得意としている。 ・ 気持ちが安定しているときは意欲的に活動できている。 ・ 勝敗へのこだわりが強い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 打つ、走る、捕る、投げるなど、攻撃や守備の基本的なボール操作を身に付ける。 ・ 仲間と協力したり、教えあったりしながら活動する。 ・ ルールを守って安全に活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 練習やミニゲームのときに、仲間にアドバイスしたり、一緒に活動する中で友達のナイスプレーを見つけて伝えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周囲の安全に気を付けて、決められたルールや場所、用具の正しい扱い方を守りながら練習やミニゲーム取り組もうとする。 	主
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達とゲームのルールや動き方を分かち、ゲームを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達とゲームのルールや動き方などを教え合ったり、うまくできるようになったことを認め合ったりする。 		

4 指導計画 (総時数 14 時間)

次	小題材名	観点	目標	時数
一	1 ベースボールについて知ったり、体験したりする。 ○ベースボールの基本的な動きやゲームを体験する。	知・技	ベースボールの基本的な動きやゲームのやり方を知る。	2 時間
		思・判・表	自分の得意な動き、苦手な動きが分かると、どんな練習が必要か考える。 周囲の安全に気を付けて、用具を使って取り組もうとする。	
二	2 攻撃や守備の基本的な動きを練習し、ミニゲームで活用する。 攻撃練習 (1) 打つたら塁に向けて走る (2) 固定したボールを打つ (3) 投げたボールを打つ (4) 的を狙って打つ (5) 空いた所を狙って打つ 守備練習 (1) 転がしたボールを捕る (2) 浮いたボールを捕る (3) 的に向かって投げる (4) 捕りやすいように投げる	知・技	打つ、走る、捕る、投げるなど、攻撃や守備の基本的な動きを身に付ける。	8 時間 (本時 5・6 /14 時間)
		思・判・表	目標に応じた練習方法を選択し、友達と練習の仕方やゲームの進め方を教え合いながら練習する。	
三	3 ゲームの動きを練習し、ベースボール大会で活用する。	知・技	ゲームのルールや動き方が分かち、ゲームを進める。	4 時間
		思・判・表	友達とゲームのルールや動き方などを教え合ったり、うまくできるようになったことを認め合ったりする。 周囲の安全に気を付けて、決められた場所や用具の正しい扱い方やルールを守りながら、チームの友達と一緒にゲームに取り組もうとする。	

5 本時の計画 (総時数 14 時間中の 5、6 時)

(1) 全体の目標	
知・技	打つ、走る、捕る、投げるなどベースボールの基本的な動きを身に付ける。
思・判・表	うまくできるポイントを意識して、練習の仕方やゲームの進め方を友達と教え合ったり、認め合ったりする。
主	周囲の安全に気を付けて、決められたルールや場所、用具の正しい扱い方を守りながら練習やミニゲーム取り組もうとする。

① サ ン ラ イ ズ ス マ イ ル	<ul style="list-style-type: none"> 自分から体を動かす場面はあまり見られないが、スポーツ部に所属しており、友達と一緒に音楽に合わせてダンスしたりすることは好きである。 	<ul style="list-style-type: none"> ボールをよくねらってバットを振ることができ 打つ場所を確認し、きま 	<ul style="list-style-type: none"> バットを持ち、自分で打つ位置を判断してバッテリーボックスに立つことができ 	知 ・ 技 思 判 表 主	知 ・ 技 思 判 表 主	知 ・ 技 思 判 表 主	知 ・ 技 思 判 表 主
		<ul style="list-style-type: none"> ボールをよくねらってバットを振ることができ 打つ場所を確認し、きま 打った後、すぐにベースに向かって走ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> よく狙うときや速くに飛ばすときなど状況に合わせた、様々な打ち方や投げ方を身に付ける。 打ち方や投げ方のポイントを友達と教え合ったりしながら練習する。 自分や友達が安全に練習できるように、正しく用具を扱う。 	<ul style="list-style-type: none"> バットやボールの正しい構えや持ち方など自分が伝えたり、友達の改善点を伝えたりする。 	知 ・ 技 思 判 表 主	知 ・ 技 思 判 表 主	知 ・ 技 思 判 表 主
② レ ッ ド サ ン ズ	<ul style="list-style-type: none"> 体の使い方がきちんとない面はあるが、友達と一緒に体力トレーニングやダンスに笑顔で取り組みの様子が見られる。 野球の経験はほとんどないが、ソフトボール投げでは、速くに飛ばそうと意識しながら前に投げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ボール運動が好きで、力いっぱい投げることが得意だが、力加減をコントロールすることは難しい。 ルールや物の仕組みを理解することは得意で、言葉で説明することができ 周囲の安全への意識が向かなかつたり、物を乱雑に扱ったりすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> バットやボールの正しい構えや持ち方など自分が伝えたり、友達の改善点を伝えたりする。 	知 ・ 技 思 判 表 主	知 ・ 技 思 判 表 主	知 ・ 技 思 判 表 主	知 ・ 技 思 判 表 主
		<ul style="list-style-type: none"> ボール運動が好きで、力いっぱい投げることが得意だが、力加減をコントロールすることは難しい。 ルールや物の仕組みを理解することは得意で、言葉で説明することができ 周囲の安全への意識が向かなかつたり、物を乱雑に扱ったりすることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> よく狙うときや速くに飛ばすときなど状況に合わせた、様々な打ち方や投げ方を身に付ける。 打ち方や投げ方のポイントを友達と教え合ったりしながら練習する。 自分や友達が安全に練習できるように、正しく用具を扱う。 	<ul style="list-style-type: none"> バットやボールの正しい構えや持ち方など自分が伝えたり、友達の改善点を伝えたりする。 	知 ・ 技 思 判 表 主	知 ・ 技 思 判 表 主	知 ・ 技 思 判 表 主

D	<ul style="list-style-type: none"> やり方やルール、全体的な流れなどが分かるまでは周囲の動きを見て、覚えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の支援を受けながらボールを使った基本的な動きや用具の操作の仕方を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 練習やミニゲームの中で、「打ったら走ること」を覚え、今の自分の動きは良かったかどうかを教師と一緒に確認する。 	知 ・ 技 思 判 表 主	知 ・ 技 思 判 表 主	知 ・ 技 思 判 表 主	知 ・ 技 思 判 表 主
		<ul style="list-style-type: none"> 自分の得意な動きを知り、練習やゲームの中でその動きを生かす工夫を考え 簡単なルールを守り、指示に従ってゲームをしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ベースボール型球技の流れやルール、基本的な動きなどについて理解する。 ゲームを楽しむために考えたことやうまくなるために気付いたことなどを周りの人に伝えたり、教え合ったりする。 練習したことを生かしなが 	<ul style="list-style-type: none"> ベースボール型球技の流れやルール、基本的な動きなどについて理解する。 ゲームを楽しむために考えたことやうまくなるために気付いたことなどを周りの人に伝えたり、教え合ったりする。 練習したことを生かしなが 	<ul style="list-style-type: none"> ベースボール型球技の流れやルール、基本的な動きなどについて理解する。 ゲームを楽しむために考えたことやうまくなるために気付いたことなどを周りの人に伝えたり、教え合ったりする。 練習したことを生かしなが 	知 ・ 技 思 判 表 主	知 ・ 技 思 判 表 主
E	<ul style="list-style-type: none"> バスケットボール部に所属し、ボールの扱いには慣れている。 小6のときに小学校から転校してくる。小4のときに、小学校のソフトボール部に入部していた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の支援を受けながらボールを使った基本的な動きや用具の操作の仕方を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 練習やミニゲームの中で、「打ったら走ること」を覚え、今の自分の動きは良かったかどうかを教師と一緒に確認する。 	知 ・ 技 思 判 表 主	知 ・ 技 思 判 表 主	知 ・ 技 思 判 表 主	知 ・ 技 思 判 表 主
		<ul style="list-style-type: none"> 自分の得意な動きを知り、練習やゲームの中でその動きを生かす工夫を考え 簡単なルールを守り、指示に従ってゲームをしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ベースボール型球技の流れやルール、基本的な動きなどについて理解する。 ゲームを楽しむために考えたことやうまくなるために気付いたことなどを周りの人に伝えたり、教え合ったりする。 練習したことを生かしなが 	<ul style="list-style-type: none"> ベースボール型球技の流れやルール、基本的な動きなどについて理解する。 ゲームを楽しむために考えたことやうまくなるために気付いたことなどを周りの人に伝えたり、教え合ったりする。 練習したことを生かしなが 	<ul style="list-style-type: none"> ベースボール型球技の流れやルール、基本的な動きなどについて理解する。 ゲームを楽しむために考えたことやうまくなるために気付いたことなどを周りの人に伝えたり、教え合ったりする。 練習したことを生かしなが 	知 ・ 技 思 判 表 主	知 ・ 技 思 判 表 主
F	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことはあまり得意ではないが、プロ野球観戦を楽しんでいることから、ベースボール型スポーツには興味を持っていて考えられる。 ソフトボール投げをしたときは、投げる楽しさを感じながら行っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の支援を受けながらボールを使った基本的な動きや用具の操作の仕方を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 練習やミニゲームの中で、「打ったら走ること」を覚え、今の自分の動きは良かったかどうかを教師と一緒に確認する。 	知 ・ 技 思 判 表 主	知 ・ 技 思 判 表 主	知 ・ 技 思 判 表 主	知 ・ 技 思 判 表 主
		<ul style="list-style-type: none"> 自分の得意な動きを知り、練習やゲームの中でその動きを生かす工夫を考え 簡単なルールを守り、指示に従ってゲームをしようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ベースボール型球技の流れやルール、基本的な動きなどについて理解する。 ゲームを楽しむために考えたことやうまくなるために気付いたことなどを周りの人に伝えたり、教え合ったりする。 練習したことを生かしなが 	<ul style="list-style-type: none"> ベースボール型球技の流れやルール、基本的な動きなどについて理解する。 ゲームを楽しむために考えたことやうまくなるために気付いたことなどを周りの人に伝えたり、教え合ったりする。 練習したことを生かしなが 	<ul style="list-style-type: none"> ベースボール型球技の流れやルール、基本的な動きなどについて理解する。 ゲームを楽しむために考えたことやうまくなるために気付いたことなどを周りの人に伝えたり、教え合ったりする。 練習したことを生かしなが 	知 ・ 技 思 判 表 主	知 ・ 技 思 判 表 主

① サ
ン
ラ
イ
ズ
ス
マ
イ
ル

② レ ッ ド サ ン ズ	M	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ観戦が好きで、野球や相撲、テレビなどでよくテレビで見ている。そのため、ベースボール型スポーツには特に楽しみながら取り組むことができると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・打つ、走るといった攻撃の一連の流れをゲームを通して身に付ける。 ・チームで協力しながら、考えを出し合ったり、ゲームで声を出し合ったりする。 ・きまりやルールを守って、安全に楽しんで取り組むようにする。 	<p>自分の打ちやすい場所を教師と話し合って決めたり、友達のプレーを見て良かったところを見付けたりする。</p>	<p>目標と活動内容を教師と一緒に確認し、今、何の活動をしようか判断する。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー部に所属しており、屋体みにはバスケットボールでシュートするなど、日頃から楽しく体を動かしている。 ・道具を使った球技では、卓球やバドミントンも楽しんでいることから、バットやボールも進んでできそうである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バットでボールを速く打つ方法を知り、練習することができる。 ・チームで協力しながら、お互いに教え合ったり認め合ったりする。 ・きまりやルールを守り、楽しくプレーができるようにする。 	<p>打って走る距離について、高い得点が入るように走る距離を何塁にしたら良いのかを判断したり、友達のアドバイスを聞いたりする。</p>	<p>何の練習をするか教師と一緒に相談して決め、教師と一緒に友達から教えてもらったことを試す。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行の野球観戦では、バットにボールが当たって飛ぶとワクワクした一連の流れを見て、喜んでいた。 ・体を動かすことが好きなので、打つ、打つなどの運動も楽しんで行えると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボール・バットの操作方法を理解して、ボールにバットを当てることができる。 ・自分で決めた目標に向けて、友達と協力して練習したりアドバイスももらったりする。 ・きまりやルールを守り、安全に練習したりする。 	<p>ボールをバットに当てる方法や、取ったボールを遠くに投げるための練習の仕方を考えたり、教えてもらったりする。</p>	<p>練習内容を選択し、何を目標にするか決めたり、どの高さであれば打ちやすいかについて自分から進んで意見を出したりする。</p>

② レッドサンズ

② レ ッ ド サ ン ズ	J	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールをドリブルしたり、音楽に合わせて体を動かしたりすることを楽しんでいる。 ・速くまでは届かないが、ボールを投げたり転がしたりすることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バットをしっかりと保持し、ボールに当てられるようになる。 ・目標と活動内容を教師と一緒に確認する。 ・安全に気を付けて、用具を正しく使用する。 	<p>目標と活動内容を教師と一緒に確認し、今、何の活動をしようか判断する。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことは好きで、屋体みに体育館に行き、バスケットボールで遊んでいることが多い。 ・ボールを放ることに関心を持ってはあまり意識がなく、近くに落とすことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・打つ、捕る、投げるなどの基本的な体の動かし方や用具の操作の仕方を知っている。 ・ボールを捕ったり、遠くまで飛ばしたりするために友達から教えてもらったことを試したり、教師と一緒に実践して工夫したりする。 ・簡単なルールを守り、安全に気を付けながらゲームをする。 	<p>何の練習をするか教師と一緒に相談して決め、教師と一緒に友達から教えてもらったことを試す。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール部に所属しており、屋体みには体育館でドリブルやシュート練習をするなど、日頃から楽しく体を動かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・打つ、走る、取る、投げるといったゲームのルールや流れを身に付ける。 ・ボールを速くに飛ばす方法を考えたり、友達と話し合ったりしながら練習する。 ・きまりやルールを守り、安全に取り組むようにする。 	<p>練習内容を選択し、何を目標にするか決めたり、どの高さであれば打ちやすいかについて自分から進んで意見を出したりする。</p>

S	<ul style="list-style-type: none"> ・集団での活動に不安があるため、教師と一緒に活動することが多い。 ・野球の経験はほとんどないが、ソフトボール投げでは、やり方が分かるかと思いが、教師の声掛けを受けて速く飛ばそうと意識して投げることでできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・打つ、走る、捕る、投げるなどボールの基本的な操作を覚え、ゲームのルールなどを知る。 ・うまくできるポイントややり方を意識して練習やゲームに取り組み、自分や仲間とのプレーなどから、自分で気付いたことを伝えたり認め合ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の練習などを振り返りながら、自分で取り組みたい練習内容や方法を選ぶ。 	<p>知・技</p> <p>思 判 表</p> <p>主</p>	<p>知・技</p> <p>思 判 表</p> <p>主</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・打つ、走る、投げるなどボールの基本的な操作を覚え、ゲームのルールなどを知る。 ・うまくできるポイントややり方を意識して練習やゲームに取り組み、自分や仲間とのプレーなどから、自分で気付いたことを伝えたり認め合ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の練習などを振り返りながら、自分で取り組みたい練習内容や方法を選ぶ。 	
	T	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを投げる、放られたボールをつかむなどの動きにぎこちなさはあるが、自分からボールを扱い、積極的に活動する。 ・球技へのあこがれがあり、友達に「野球やろう」「バスケやろう」と関わっていく様子があ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを使い、ボールを速くまで飛ばすために友達から教えてもらっても考えたこと、自分でも考えたこと、練習したことや友達から教えてもらったことなどを生かしながら、簡単なゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に教えてもらったことを試しながら、速くに飛んだかどうか、今のサインは良かったかどうかなどを判断する。 	<p>知・技</p> <p>思 判 表</p> <p>主</p>	<p>知・技</p> <p>思 判 表</p> <p>主</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを使い、ボールを速くまで飛ばすために友達から教えてもらっても考えたこと、自分でも考えたこと、練習したことや友達から教えてもらったことなどを生かしながら、簡単なゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に教えてもらったことを試しながら、速くに飛んだかどうか、今のサインは良かったかどうかなどを判断する。
		U	<ul style="list-style-type: none"> ・野球の経験はほとんどないが、意識してボールを投げる、打つなどを楽しみながら活動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベースボール型球技の流れやルール、基本的な動きや用具の操作の仕方などを身に付ける。 ・練習を繰り返しながら自分ですることができるポイントを見付けたり、友達の様子を見て良いと思った点をまねたりしながら、工夫する。 ・練習したことを生かしながらゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・うまくできるようなこと、自分から周りの人に伝えたり、友達と意見を合ったりする。 	<p>知・技</p> <p>思 判 表</p> <p>主</p>	<p>知・技</p> <p>思 判 表</p> <p>主</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ベースボール型球技の流れやルール、基本的な動きや用具の操作の仕方などを身に付ける。 ・練習を繰り返しながら自分ですることができるポイントを見付けたり、友達の様子を見て良いと思った点をまねたりしながら、工夫する。 ・練習したことを生かしながらゲームをする。

③ 疾風雷門

P	<ul style="list-style-type: none"> ・勝敗がつくゲームなどは苦手だが、自分の記録に挑戦するスポーツテストには積極的に取り組み、ソフトボール投げも前に投げることでできた。 ・道具の扱いが、少し複雑な面が見られ、丁寧に扱うよう言葉掛けが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを投げるときの腕の振り方やバットの持ち方を覚え、練習やゲームに取り組み。 ・自分の目標をもち、周囲にがんばることを伝えたり、友達のアドバイスを受け入れたりする。 ・用具を正しく扱い、きまりやルールを守って練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを投げるときの腕の振り方やバットの持ち方を覚え、練習やゲームに取り組み。 ・自分の目標をもち、周囲にがんばることを伝えたり、友達のアドバイスを受け入れたりする。 ・用具を正しく扱い、きまりやルールを守って練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勝敗がつくゲームなどは苦手だが、自分の記録に挑戦するスポーツテストには積極的に取り組み、ソフトボール投げも前に投げることでできた。 ・道具の扱いが、少し複雑な面が見られ、丁寧に扱うよう言葉掛けが必要である。 	<p>知・技</p> <p>思 判 表</p> <p>主</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを投げるときの腕の振り方やバットの持ち方を覚え、練習やゲームに取り組み。 ・自分の目標をもち、周囲にがんばることを伝えたり、友達のアドバイスを受け入れたりする。 ・用具を正しく扱い、きまりやルールを守って練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勝敗がつくゲームなどは苦手だが、自分の記録に挑戦するスポーツテストには積極的に取り組み、ソフトボール投げも前に投げることでできた。 ・道具の扱いが、少し複雑な面が見られ、丁寧に扱うよう言葉掛けが必要である。 		
	Q	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが得意で、バスケや卓球、バドミントン等道具を使った運動にも活発に取り組む様子がみられる。 ・自分なりのやり方で取り組むことを好み、なかなかアドバイスを受け入れられないこともある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・打つ、捕る、投げるなどの基本的な体の動かし方や道具の操作の仕方を身に付ける。 ・目標に向かって工夫しながら練習し、気付いたことを友達にアドバイスしたり、友達の見え方をきいたりする。 ・きまりやルールを守って、周囲の安全に気を付けてながら運動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・打つ、捕る、投げるなどの基本的な体の動かし方や道具の操作の仕方を身に付ける。 ・目標に向かって工夫しながら練習し、気付いたことを友達にアドバイスしたり、友達の見え方をきいたりする。 ・きまりやルールを守って、周囲の安全に気を付けてながら運動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・打つ、捕る、投げるなどの基本的な体の動かし方や道具の操作の仕方を身に付ける。 ・目標に向かって工夫しながら練習し、気付いたことを友達にアドバイスしたり、友達の見え方をきいたりする。 ・きまりやルールを守って、周囲の安全に気を付けてながら運動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが得意で、バスケや卓球、バドミントン等道具を使った運動にも活発に取り組む様子がみられる。 ・自分なりのやり方で取り組むことを好み、なかなかアドバイスを受け入れられないこともある。 	<p>知・技</p> <p>思 判 表</p> <p>主</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・打つ、捕る、投げるなどの基本的な体の動かし方や道具の操作の仕方を身に付ける。 ・目標に向かって工夫しながら練習し、気付いたことを友達にアドバイスしたり、友達の見え方をきいたりする。 ・きまりやルールを守って、周囲の安全に気を付けてながら運動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが得意で、バスケや卓球、バドミントン等道具を使った運動にも活発に取り組む様子がみられる。 ・自分なりのやり方で取り組むことを好み、なかなかアドバイスを受け入れられないこともある。
		R	<ul style="list-style-type: none"> ・授業にしっかりと参加し、自分のできることを一生懸命やろうとする。 ・体力が続かず、座って休むことがある。 ・球技の経験は無いが、教師の言葉掛けや見本を見ながら、楽しんで活動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを打ったり、捕ったりなど、攻撃や守備の基本的な動きを身に付ける。 ・より上手にできるために、自分から質問したり、仲間からアドバイスを参考にしたりしながら練習やゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを打ったり、捕ったりなど、攻撃や守備の基本的な動きを身に付ける。 ・より上手にできるために、自分から質問したり、仲間からアドバイスを参考にしたりしながら練習やゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを打ったり、捕ったりなど、攻撃や守備の基本的な動きを身に付ける。 ・より上手にできるために、自分から質問したり、仲間からアドバイスを参考にしたりしながら練習やゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業にしっかりと参加し、自分のできることを一生懸命やろうとする。 ・体力が続かず、座って休むことがある。 ・球技の経験は無いが、教師の言葉掛けや見本を見ながら、楽しんで活動している。 	<p>知・技</p> <p>思 判 表</p> <p>主</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールを打ったり、捕ったりなど、攻撃や守備の基本的な動きを身に付ける。 ・より上手にできるために、自分から質問したり、仲間からアドバイスを参考にしたりしながら練習やゲームをする。

(3) 学習過程

時間(分)	学習活動	手立て・指導上の留意点	準備物
10:30 (10)	1 始めの挨拶をする。 2 めあてや活動内容を確認する。 ・どうしたらうまくできるか考えよう。	手立て・指導上の留意点 ・めあてや活動をイメージできるように、良い見本を教師が演示したり、映像で見せたりする。また、何人かの生徒でミニゲームを行う中で、ルールの確認などが行えるようにする。 ・個別の目標を確認できるように、目標を選択するシートを用意する。	準備物 学習予定表 テレビ
10:40 (10)	3 チームミーティング ① 今日頑張ること	・演示は準備運動が得意な生徒に呼び掛ける。 ・自分で取り組みたい練習を選ぶことができるように、複数の練習方法を提示すること ・カメラで撮影し、自分の動きを確認することができるようにする。 ・うまくできたポイントを視覚的に提示し、新しいポイントに気付いたときに、記入できるカードを準備しておく。 ・教え合ったり、認め合ったりできるように、チームで活動し、教師が上手くできたポイントを称賛し、全体に共有する。 ・安全に練習できるように、練習やチームごとに場所を区切ったり、声を掛け合いながら活動するように伝えたりする。	目標シート
10:50 (25)	4 準備運動をする。 5 チャレンジ 1 練習をする。 I 攻撃練習 II 守備練習 III チームミーティング ② ・ミニゲームに向けて ※ローテーション順番で行う。	・全員が参加できるように、ゲームの進め方やルールを簡略化する。 ・ルールや点数が分かりやすいように、視覚的に示す。 ・安全を確保できるように、ボールのセットや打つ合図など審判は教師が行う。 ・得点板を用いて控えたチームが得点を付ける。	ボール ティーバー バット 三角コーン アウトボックス クスター タイマー カメラ テレビ ポイントカード
11:15 (30)	6 チャレンジ 2 ミニゲームをする。	・自分たちで片付けられるように、片付ける場所を明示しておく。 ・うまくできたポイントや次回の課題などをチームで確認できるようにミーティングシートを用意する。	得点板 ミーティングシート
11:45 (15)	7 片付けをする。 8 チームミーティング ③ ・うまくできたポイント ・次に頑張りたいこと	・各チームからうまくできたポイント、様子などを聞き取る。 ・良いポイントに気付いたり、良いプレイが見られたりした生徒を取り上げて称賛する。	
12:00 (10)	8 めあての振り返りをする。 9 終わりの挨拶をする。		

U	V
<p>・スポーツ部に所属している。体を動かすことが好きで、友達の様子を見て走ったり、ゲームに参加したりすることができるとができる。</p> <p>・思い通りにいかないことがあると、道具を投げつけたり、怒つてその場からじっと動こうとしなくなったりする時がある。</p> <p>・バスケットボール部に所属している。</p> <p>・様々なスポーツに精通し、試合を観戦したり、自分でプレイしたり、いろいろな形で楽しんでいる。</p>	<p>・教わった方法で、ボールを強く打つことができるとができる。</p> <p>・打つ順番や守る場面を覚え、役割を果たす。</p> <p>・興奮しすぎないように気を付けながら、友達と楽しくゲームに取り組む。</p> <p>・ボールを打つ位置を変え、打球の方向を変え、打つことができるとを体得する。</p> <p>・状況に応じた効果的な打ち方、守り方を友達にアドバイスする。</p> <p>・立つ位置、応援する位置などに気を配り、危険のないように確認する。</p>
<p>・スポーツ部に所属している。体を動かすことが好きで、友達の様子を見て走ったり、ゲームに参加したりすることができるとができる。</p> <p>・思い通りにいかないことがあると、道具を投げつけたり、怒つてその場からじっと動こうとしなくなったりする時がある。</p> <p>・バスケットボール部に所属している。</p> <p>・様々なスポーツに精通し、試合を観戦したり、自分でプレイしたり、いろいろな形で楽しんでいる。</p>	<p>・周囲の状況を見たり、友達に教えてもらったりしながら、攻守の切り替えを判断する。</p> <p>狙った方向に打ったり投げたりする方法を体得し、友達にも伝える。</p>
<p>③ 疾風雷門</p>	

(5) 板書計画

能代甲子園！ベースボール大会をしよう！
 めあて どうしたらうまくできるか考えよう。

ボールにあてる	ボールがうっ	ねらったところにうっ	とばくにうっ	ういたボール(フライ)	ころがるボール(ゴロ)
ポイント	ポイント	ポイント	ポイント	ポイント	ポイント

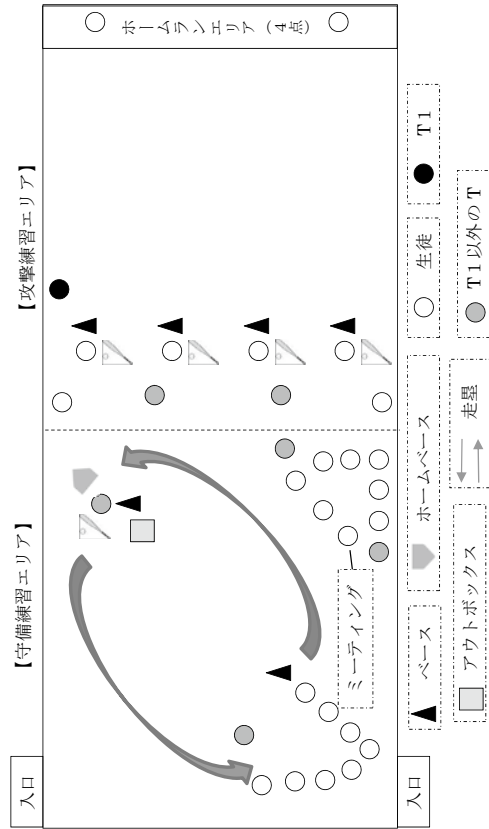
- 1 チームミーティング① 「きょうがんばること」
- 2 チャレンジ1 練習
- 3 チームミーティング②
- 4 チャレンジ2 ミニゲーム
- 5 チームミーティング③ 「うまくできたこと」「次がんばること」
- 5 ふりかえり

(6) 評価の観点

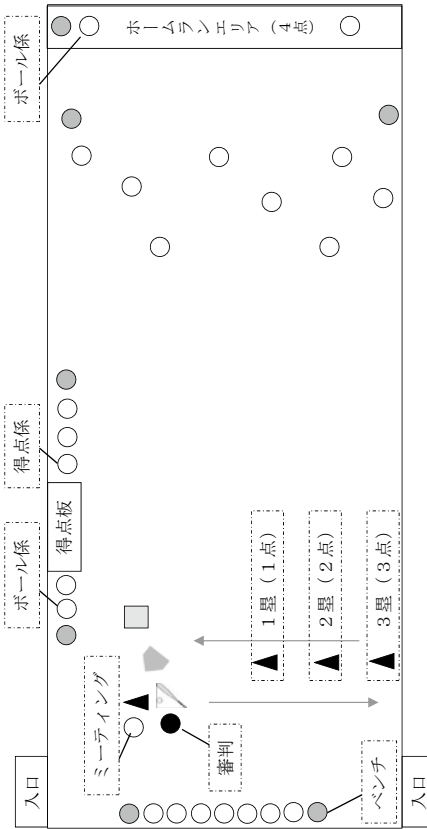
- (生徒) ・打つ、走る、投げる、捕るなどのボールの操作を身に付けることができたか。
 ・目標に応じた練習方法を選択し、やり方やポイントを教え合ったり、認め合ったりすることができたか。
 ・周囲の安全に気を付けて、決められた場所や用具の扱い方、ルールを守ることができていたか。
- (教師) ・課題に合った適切な場の設定、用具や練習方法を準備することができていたか。
 ・生徒同士が教え合ったり認め合ったりすることができるように、適切な支援ができたか。

配置図

<練習時>



<ゲーム時>



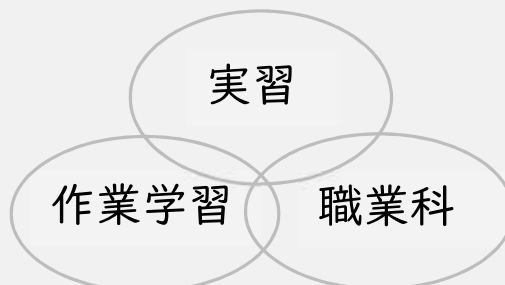
Ⅱ 各学部・寄宿舍の研究 高等部

高等部の実践 ～職業科の取組を通して～

1 職業科を通して目指す姿

高等部では、今年度「職業科」を研究対象として授業づくりを行うこととした。その理由は以下の通りである。

- ① これまで、「実習」「作業学習」等に関する授業づくりや体制づくりを行ってきたが、それら同士の関連性・系統性が弱かった。
- ② 「職業科」を取り上げることで、高等部の学習の大きな割合を占める「実習を中心とした様々な学習」を整理し、系統性をもたせることができ、学習効果が高まるのではないかと考えた。



また、今年度の全校研究の目的の一つである「物的環境・人的環境の工夫改善により、学習課題に向かう意欲や学び合いを促し、学習内容の理解度を高める」を受け、以下の4つの「目指す姿」に向けて授業改善を行うこととした。



2 授業改善の工夫と生徒の様子

単元名 後期校内・職場実習事後学習
～働くための自分の課題と、その改善策を見付け出す～

単元の要旨・特徴

高等部1年職業①グループ（主に一般就労を希望している生徒で構成される）を研究対象とし、後期職場実習を中心とした学習について、単元構成や1単位時間の学習過程の改善を行った。

本単元は、ほとんどの生徒にとって初めてとなる後期職場実習を振り返る単元である。実習における自己評価と他者評価を「働くために必要な力」という観点で摺り合わせ、自分の強みと課題を導き出し、学校生活全体における行動目標へと意識付けていく。意識化のために最も重要視した活動は、「身近な存在からアドバイスをもらう」活動と「自分の課題の本質を考える」活動である。課題の背景に何があるか考えることで、目標や達成のための手立てを導きやすくした。

また、人的環境を整えるという観点から、授業づくりと並行して職員研修を行ったり、実習報告会の在り方を見直したりし、実習を取り巻く全ての活動を改善・整理した。



写真1 「先輩にアドバイスをもらう」

(1) 指導計画の改善（主体的・対話的・深い学びの視点での単元構想）

※○は生徒の学習活動、★は職員の動きを表す。また、網掛け部分は変更・追加されたものを示す。なお、時数の中に職員の動きは含まない。

〈検討前の指導計画〉

次	学習活動	時数
一	後期校内・職場実習に向けて ○目標を考える ○日誌の書き方 ○帰着電話について	10
二	後期校内・職場実習 ★実習巡回時の情報交換	60
三	後期校内・職場実習を振り返って ○目標と反省 ○実習先からの評価	10
四	実習報告会 ○成果と課題の発表	2



〈改善後の指導計画〉

次	学習活動	時数
一	後期校内・職場実習に向けて ○「働く力チェックリスト」での自己評価 ○目標を考える ○帰着電話について ★「働く力チェックリスト」を使用した視点の共有 ★巡回指導研修会	10
二	後期校内・職場実習 ★巡回指導への同行 ★成果と課題の共有 ★生徒の目標に合わせた巡回記録の整理 ★課題の本質の分析	60
三	自分を知る ○実習の成果と課題の整理 ○職員との個別面談 ★実習の成果と課題を共有する会	4
四	課題の解決策を見付け出す ○具体的エピソードと改善の意義（成果・課題） ○先輩からアドバイスをもらう ○職員との個別面談	7
五	実習報告会での発表 ○学年のテーマ「知る」に関連させた発表	2
六	日々の実践を振り返る ○振り返りシートを活用した定期的な自己評価と他者評価	5

【問題点】

- ・職場実習が初めての生徒が多いため、働くことのイメージが未熟である。よって、目標設定が曖昧になる。
- ・実習中の生徒の様子について職員同士が情報交換する機会はあるが、視点が曖昧で、巡回も1名で行っているため共有が十分ではない。
- ・生徒が活用できる巡回記録になっていない。
- ・実習の振り返りに深まりが見られず、学校生活全体に反映されにくい。
- ・実習報告会が「成果と課題の一方的な発表」となりがちで、生徒同士の学び合いの要素が少ない。

【改善ポイント】

- ①「働く力チェックリスト」の有用性の確認と自己評価・目標設定場面での活用
- ②巡回指導研修会の実施や複数での巡回指導、成果と課題の共有
- ③授業に生かすための巡回記録の整理
- ④課題改善の意義を感じることで具体的なエピソードの活用

改善ポイント① 「働く力チェックリスト」の有用性の確認と、自己評価・目標設定場面での活用

「働く力チェックリスト」（他校や文献を参考にしつつ本校で作成したもの）の有用性を職員間で確認し、全てのグループで活用することにした。生徒・職員双方が同じ視点をもって「働く力」について考えることが必要だと共通理解した。

対象となる学習グループでは、実習前の目標設定のためにチェックリストを活用し、現在の自分の強みと課題を可視化した。チェックリストはいくつかの項目に分かれているため、「今の自分の強みは体力だが、仕事のスピードに課題がありそうだ」等、実習の目標を考えるための材料として活用することができた。

働くために必要な力	内容
コミュニケーション	元気な挨拶と返事ができる
	敬語で話せる
	迷ったときに聞き直したり、質問したりできる
	作業終了後に報告できる
仕事の正確さ	最後までハキハキと伝えることができる
	挨拶よく、笑顔でやりとりできる
	指示や注意に素直に答える
	指示通りに行動できる

写真2 「働く力チェックリスト」の一部（1年用）

改善ポイント② 巡回指導研修会の実施や複数での巡回指導、成果と課題の共有

これまで高等部では、主に職員1名での巡回指導を行ってきた。その中で、「巡回指導の経験がなく、不安である」といった職員の声や、「巡回指導者が変わることが前提であるにもかかわらず共有できる視点がないと、指導に一貫性がなくなる」という課題が浮き上がった。そこで、進路指導部を中心に研修会を企画し、巡回指導の流れや巡回の視点の共有を行った。また、高等部に数年在籍する職員と初めて在籍する職員がペアとなって巡回する体制づくりを整備した。さらに、「実習の成果と課題を共有する会」を実施し、生徒の成果と課題を作業学習担当者に確実に伝え、目標や手立てを共有した。

改善ポイント③ 授業に生かすための巡回記録の整理

改善ポイント②によって、巡回の視点が整理され、日々の巡回指導の共有が図られるようになり、実習中の生徒に徐々に変容が見られるようになっていった。しかし、「実習前に生徒が立てた目標に沿っているか」という視点で巡回記録を見たとき、ほとんどの記録は内容が大きく膨らんでしまい、生徒が見たときに正しく理解できないだろうと思われた。そこで、巡回記録を生徒が見て自己評価できるように、内容を並び替えたり、項目ごとにまとめたり、不必要なものは削除したり（職員用としては保存）して、整理した。その際、「事後指導の際に、生徒にどのようなことに気付いてほしいか」という視点が生まれ、ねらいを意識した巡回記録へと変わっていった。巡回記録も重要な教材となり得ることを確認することができた。

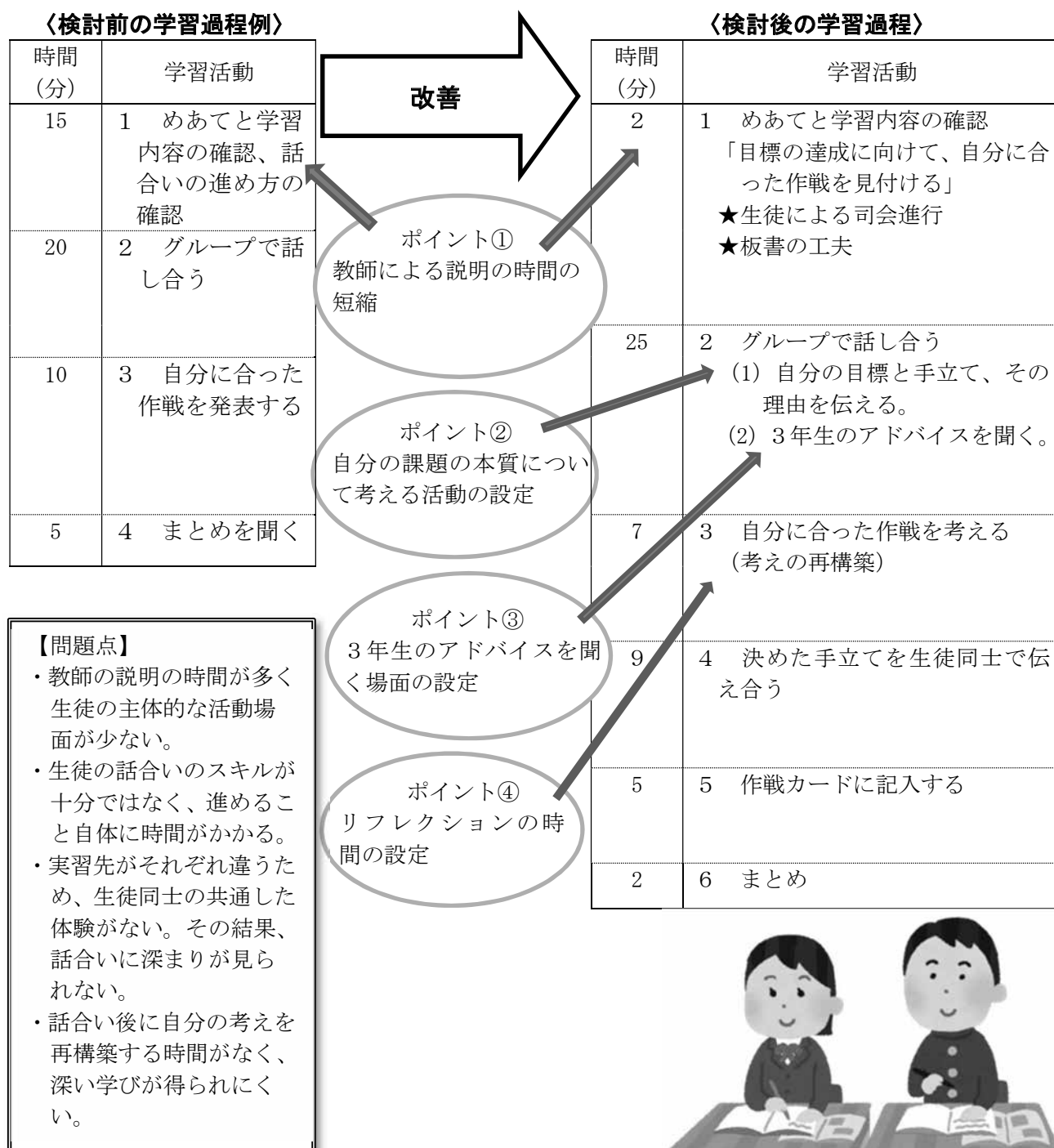
改善ポイント④ 課題改善の意義を感じることでできる具体的エピソードの活用

職場での経験がほぼ初めてとなる1年生にとって、「強みをさらに強化する意欲・課題を改善する意欲」をどうかきたてるかということが職員の話題に上った。特に課題を改善する意義については、「働くイメージ」がまだ乏しい1年生にとって、実感しにくいものであると考えられた。そこで、学習活動に具体的エピソードを多く盛り込み、実感がもてるように工夫した。

例えば、「シャツをズボンから出して作業した。職場ではどのようなことが起こるか」といった投げ掛けをし、生徒が場面を想像しながら考える場面を作った。必要に応じて職員によるロールプレイを取り入れ、できるだけ具体的に考えられるようにした。また、この活動では生徒同士の話し合いの場面も多く設定し、意見交換できるよう配慮した。



(2) 学習過程の改善（主体的・対話的・深い学びの視点での授業づくり）



改善ポイント① 教師による説明の時間の短縮

できるだけ生徒の力で話し合いを進めてほしいとの考えから、授業の初めに確認を行ったが、説明の時間を多く取ることになってしまい、生徒の主体性を尊重したり活動時間を保障したりすることが難しくなった。そこで、単元全体を通して学習の流れをできる限り一定にし、生徒が自分たちで学習を進行できるようにした。また、授業の開始前、板書にある程度の情報を掲示しておいたり、話し合いをスムーズに進めるためのカードを教材として準備したりした。

改善ポイント② 自分の課題の本質について考える活動の設定

巡回記録から見えてきた生徒の課題となるエピソードから、「苦手な理由は何か」という投げかけをした。以下に例を示す。

実習中のエピソード：困った時に自分から相談に行くことができなかった。

苦手な理由：①緊張感があり、声が出てこなかった。②相談するための表現がわからなかった。

生徒の課題となるエピソードの本質に迫ることで、何を解決する必要があるのかが明確になり、生徒が次の目標や手立てを導きやすくなった。

改善ポイント③ 先輩のアドバイスを聞く場面の設定

職場実習の経験がほとんどない1年生が、自分の課題と向き合ったり、友達と話し合いをしたりすることは大変困難であると推測されたため、同じ経験をしたことのある存在＝先輩を学習場面に招き、アドバイスをもらう活動を設定した。

教師と違い、1～2年前に同じ道を通った先輩の話は1年生の生徒にとって身近に感じ、納得しやすい様子であった。熱心にメモをとったり質問をしたりする生徒の姿が見られた。「先輩にもそんなときがあったんだ」等の生徒のつぶやきも多く聞かれた。

また、この活動は、アドバイスをする側（3年生）にとっても多くの学びがあった。「アドバイスをするからには、自分も今一度気を引き締めなければ」「1年生に伝わるようにするにはどのような言葉で伝えたらいいんだろう」等の発言が聞かれ、事前に話すことをまとめる姿が見られた。

1年生、3年生双方にとって大きな学びが得られた活動であった。



写真3 先輩にアドバイスをもらう

改善ポイント④ リフレクションの時間の設定

この單元において、「自分で考える」→「考えを先輩に伝える」→「先輩にアドバイスをもらう」→「自分の考えを再構築する」→「考えを友達に伝える」→「自分の考えをまとめる」という流れで自分の考えを何段階にも渡って深めていく活動を設定した。先輩にアドバイスされたことを鵜呑みにするのではなく、立ち止まって再度考え、本当に自分の作戦として合っているのか、実行可能なのか吟味する時間をとった。

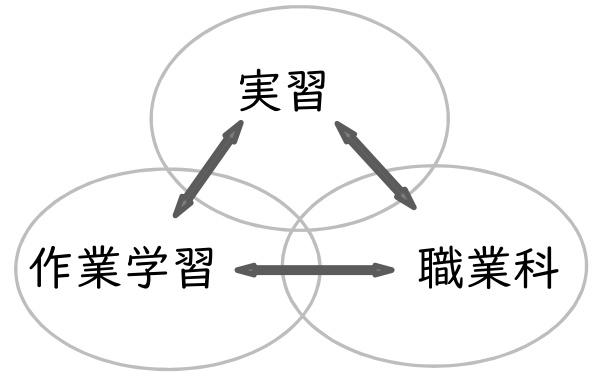
生徒の中には先輩からのアドバイスではなく、元からの自分の考えを最終的に選択した者もいたが、それに対しては、その理由を明確に述べているかどうかを評価の材料とした。



写真4 自分の考えをまとめる

3 実践の成果

- ・「職業科」の授業づくりを、【单元全体】【1単位時間】という時間の枠を中心とした流れだけでなく、【教科横断的な視点】をもって見直すことで、授業のみならず、実習を取り巻く横のつながりを大切にしようという意識が職員の中で大きくなった。実習事後学習のまとめとして実施した「実習報告会」では、各学年のテーマ「知る」「選ぶ」「決める」に基づいた発表がポスター発表形式でなされ、生徒による活発な意見交換の様子が見られた。
- ・異学年での学び合いを取り入れたことで、生徒の学習意欲や主体性が大きく向上した。また、これをきっかけに、人材を活用した課題解決として「先輩→卒業生→職場の先輩」といった段階があることを職員が共通理解し、今後も校内資源（人材）を活用して学びの質を高めていくことを確認した。
- ・話合いを伴う活動に「リフレクション」を取り入れることで、生徒の心（考え）が整理され、今後の自分の行動についてじっくり考える様子が見られるようになった。また、リフレクションを成功させるためには、①体験を伴う、②実感を得られる、③気付きがある学習活動を設定し、生徒自身の「心が動く」場面を作る必要があることも共通理解できた。



4 今後の取組

- ・めあての焦点化と、めあてに対応したまとめ方の工夫
- ・2グループ（福祉サービスの利用を希望するグループ）に有効な職業科の授業づくり
- ・学部全体で活用するための「働く力チェックリスト」の見直し

高等部 1 年 職業科 ①グループ 学習指導案

日 時 令和元年 12 月 3 日 (火) 11 : 20 ~ 12 : 10

場 所 高等部 1 年 A 組教室

指導者 落合久貴子 (T1)、鈴木 雄裕 (T2)

1 題材名 後期校内・職場実習事後学習

～働くための自分の課題と、その改善策を見付け出す～

2 題材の目標

知・技	実習で明らかになった自分の課題と職場で求められる力を比べ、課題の改善が職場でなぜ必要になるのか、その理由を知る。
思・判・表	働く上での今後の課題をもとに学校生活の目標を考え、目標の達成に向けた話合いから、自分ができている手立てをまとめる。
主	自分自身の成長を実感したり、改善しようと思ったりしながら、目標の達成に向けて考えた手立てを実践する。

3 生徒と題材について

男子 9 名、女子 4 名の学習グループ (高等部 1 段階) であり、全員が一般就労を希望している。自分の考えを話す生徒、メモへの記入や他者との話し合いで考えを整理して伝える生徒がいる一方で、人と関わりたい気持ちや不適切な言動で表してしまう生徒もいる。また、学校に向かう気持ちを整えることの苦しさや不規則な生活リズム、精神面での不調等から登校日数が少ない生徒も 3 名おり、多様な実態の学習グループである。仕事に対する責任や求められる行動など、就労に対するイメージは漠然としているものの、前・後期の校内・職場実習を通して、働くためには準備や課題の改善が必要という意識は根付いてきている。しかし、課題の改善に向けて「学校生活で何をすべきか」を具体的にイメージすることはできず、日常生活や日々の学習にはつながらないことが多い。

本題材では、実習で明らかになった自分の課題を整理し、改善に向けて手立てを考えて実践していく。就労を希望する高等部 1 年生にとっては後期実習が初めての職場実習となる。実習を振り返って出てきた課題は、実体験を伴っているため、改善することの必然性が具体的にイメージしやすい。そこで、新たな改善の視点を得て、生徒達が改善策を見つけて、理解を深めるために高等部 3 年生からアドバイスを受ける活動を取り入れる。自分の意見に近い考えや、新たな考えを取り入れることで、自分に合った改善方法へと理解が深まると考える。また、実習で立てた目標と手立てを、日々の学校生活にもつなげながら連続性と必然性をもって実践できるよう、「実践、評価、改善」を繰り返し行う。自分の課題とそれを改善する意義を知ること、生徒自身が必然性を感じながら実践を重ねられると考える。実践の積み重ねを通して、自分の成長を実感し、働く意欲を高めながら取り組もうとする姿につなげたいと考え、本題材を設定した。

指導に当たっては、次の点に留意する。

- ・成果と課題を整理できるよう、実習日誌や巡回指導記録を基に情報を整理したり、教師と個別面談をしたりする。

- ・目標や改善に向けた考えが深まるよう、個々の生徒の中心課題やその課題となる原因を分析し、考える視点を明らかにする。

- ・生徒自身の考えを整理し、「やってみよう」という気持ちを引き出すよう、生徒主体の話し合い活動や、自分自身で考えを整理する学習活動を取り入れる。

4 指導計画 (総時数 15 時間)

次	小題材名	観点	目標	時数
一	自分をj知る	知・技 思・判・表 主	日誌や巡回指導記録から、実習の成果と課題を知る。 巡回記録の分析や教師との個別面談から、生徒自身が自分の中心的な課題に気付く。 課題を改善しようとする意識をもつ。	4 時間
二	課題の解決策を見付け出す	知・技 思・判・表 主	職場で求められる力と照らし合わせ、個々の課題改善の意義を知る。 高等部 3 年生からのアドバイスを参考にし、自分に合った具体的な手立てを考える。 自分自身の成長に向けて、積極的に質問をしたり、メモを取ったりする。	4 時間 本時 7 / 15 時間
三	実習報告会で発表する	知・技 思・判・表 主	様々な実習先や仕事内容、お互いの働くことに向き合う姿勢を知る。 自分の目標と改善するための手立てを発表する。 高等部 2・3 年生からのアドバイスをを受け、課題を改善しようとする意識を高める。	2 時間
四	日々の実践を振り返る	知・技 思・判・表 主	考えた手立てを学校生活で実践し、職業生活に必要な言動を身に付ける。 実践したことを評価し、よりよいものになるよう仲間と相談しながら手立ての改善を積み重ねる。 自分自身の成長や頑張りを振り返り、前向きに課題を改善しようとする意識をもつ。	5 時間

5 本時の計画 (総時数 15 時間中の 7 時)

(1) 全体の目標

知・技	高等部 3 年生の実体験を基に、課題を改善することの必然性や新たな手立てを知る。
思・判・表	高等部 3 年生のアドバイスから自分の課題改善に向けた手立てを考える。
主	学校生活での実践に向け、改善に向けた手立てと考えた理由を表現する。

(2) 個別の目標

氏名	本題材に関する生徒の実態と様子	題材の目標	本時の目標 (本時、特に達成したい1観点に絞り表記)
A	<ul style="list-style-type: none"> 課題の改善に向けて、意識が行動に表れるとことがある。 自分の体験や考えをあらかじめ教師と確認すると、話し合いで伝える内容を整理できる。 	<p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習で明らかになった自分の課題の意義を知る。 <p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の目標を考え、自分に合った手立てを話し合いから見付け、自分の言葉でまとめる。 <p>技</p> <ul style="list-style-type: none"> 手立てを実践できた経験を積み重ね、実践的な場面での態度を身に付ける。 	<p>主</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が考えた手立てと、高等部 3 年生のアドバイスから、自分に合った手立てを見付ける。
B	<ul style="list-style-type: none"> 課題を改善しようとする意識があるが、限定された場面や短時間で伝えることが多い。 自分でまとめた考えを伝えようとする。 失敗やプレッシャーへの耐性の低さから、不適切な物言いをすることがある。 	<p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習で明らかになった課題に取り組む意義を知る。 <p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の課題に気付き、改善に向けた手立てを話し合いからまとめる。 改善できた経験を積み重ね、自分の成長に自信をもつ。 	<p>主</p> <ul style="list-style-type: none"> 高等部 3 年生のアドバイスを受け入れ、自分に合った手立てを選んだり、まとめたりする。
C	<ul style="list-style-type: none"> 課題は分かっているものの、自分の意識によって改善したり、しなかったりすることがある。 自分の考えをメモしながらじっくり考えて発 	<p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習で明らかになった自分の課題と職場で求められる力を比べ、なぜ必要になるのかを知る。 <p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合いから自分ができている手立てを考えてまとめる。 	<p>主</p> <ul style="list-style-type: none"> 高等部 3 年生からのアドバイスを取り入れ、目標の達成に向けた具体的な手立てを考える。

氏名	本題材に関する生徒の実態と様子	題材の目標	本時の目標 (本時、特に達成したい1観点に絞り表記)
D	<ul style="list-style-type: none"> 課題は分かっているが、実際の状況では改善する意識が十分ではなく、行動にはなっていない。 話し合いでは、積極的に自分の考えを発言したり、周りの意見を聞き取りうとしたりする。 	<p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習で明らかになった自分の課題と職場で求められる力を比べ、なぜ必要になるのかを知る。 <p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合いから自分の考えを深め、改善の手立てを具体的にまとめる。 <p>技</p> <ul style="list-style-type: none"> 改善できた状況や経験を積み重ね、手立てを意識しながら実践する。 	<p>主</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習で明らかになった自分の課題の意義を知る。 自分に合った手立てを話し合いのアドバイスから選り、その理由を説明する。 手立てを実践できた経験を積み重ね、実践的な場面での態度を身に付ける。
E	<ul style="list-style-type: none"> 課題が分かり、慣れた人や限定された場面では改善しようと実践するときがある。 自分の体験や考えをあらかじめ教師と確認すると、話し合いで伝える内容を整理できる。 	<p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習で明らかになった自分の課題の意義を知る。 <p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の体験や考えをあらかじめ教師と確認すると、話し合いで伝える内容を整理できる。 	<p>主</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が考えた手立てと、高等部 3 年生のアドバイスを比べ、自分に合った手立てを見付ける。
F	<ul style="list-style-type: none"> 目標は立ててはいるものの、達成しようとする意識が低く、場面や相手によって実践する態度が変わる。 積極的に周りの意見を聞き取ろうとしたり、自分の考えを発言しようとしたりする。 	<p>知</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習で明らかになった自分の課題と職場で求められる力を比べ、なぜ必要になるのかを知る。 <p>思</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の課題からこれからの学校生活の目標を立てたり、話し合った手立てを取り入れながら自分ができる方法を考えたりする。 <p>技</p> <ul style="list-style-type: none"> 改善の必然性と将来の生活に向けて手立てを実践しようとする意識をもつ。 	<p>主</p> <ul style="list-style-type: none"> 高等部 3 年生のアドバイスから考えを深め、目標の達成に向けた具体的な手立てを考える。

G	<ul style="list-style-type: none"> 学校を休みがちで、学習経験や社会経験の積み重ねが乏しい。 教師と一緒に目標を立てるものの、自己理解が十分ではなく、実践する必要性を感じていない。 前前で話すことに恥ずかしさや不安感があり、教師と一緒に参加することが多い。 	<p>実習で明らかになった自分の課題の意義を知る。</p> <p>自分に合った課題改善の手立てを話し合っただり、アドバイスから選んだり、自分の言葉でまとめたりする。</p> <p>手立てを実践できた経験を積み重ね、自分の成長に自信をもつ。</p>	<p>自分で考えた手立てや受けたアドバイスから、自分に合った手立てを見付ける。</p>	<p>実習で明らかになった自分の課題の意義を知る。</p> <p>自分に合った課題改善の手立てを話し合っただり、アドバイスから選んだり、自分の言葉でまとめたりする。</p> <p>手立てを実践できた経験を積み重ね、自分の成長に自信をもつ。</p>	<p>自分で考えた手立てや受けたアドバイスから、自分に合った手立てを見付ける。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 課題は分かっているものの、自分自身のこととして改善しようとする意識が低く、行動にはつなげていない。 自分の思いや考えを表すことが苦手で、自分から発言することはほとんどないが、メモに自分の考えを書くことができる。 	<p>実習で明らかになった自分の課題が分り、なぜ職場で必要になるのか、その理由を知る。</p> <p>自分の目標と手立てを考え、話し合っただり、アドバイスから自分にとって選んでまとめ、改善の必然性を意識し、実践できた経験を積み重ねながら、身に付ける。</p>	<p>自分が考えた手立てとアドバイスから、自分が実践する手立てを具体的に示す。</p>	<p>自分が考えた手立てとアドバイスから、自分が実践する手立てを具体的に示す。</p>	
H	<ul style="list-style-type: none"> 不規則な生活と体力のなさから学校を休みがちで、今回の実習が高等部に入学して初めての経験である。 将来に対する明確なイメージをもっておらず、働くことや自分の課題を改善する必要性を感じていない。 自分の考えを積極的に発言はしないものの、聞いたことをメモしたり、考えをまとめて伝えたりすることができ 	<p>実習で明らかになった自分の課題と職場で求められる力を比べ、なぜ必要になるのかその理由を知り、まとめる。</p> <p>自分に必要な手立てを話し合っただり、意見から取り入れ、まとめる。</p> <p>改善の必然性を意識し、将来の生活に向けて実践を積み重ねる。</p>	<p>高等部3年生からのアドバイスを取り入れ、自分の課題と職場で求められる力を比べ、なぜ必要になるのかその理由を知り、まとめる。</p>	<p>高等部3年生からのアドバイスを取り入れ、自分の課題と職場で求められる力を比べ、なぜ必要になるのかその理由を知り、まとめる。</p>	<p>高等部3年生からのアドバイスを取り入れ、自分の課題と職場で求められる力を比べ、なぜ必要になるのかその理由を知り、まとめる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 不規則な生活と体力のなさから学校を休みがちで、今回の実習が高等部に入学して初めての経験である。 将来に対する明確なイメージをもっておらず、働くことや自分の課題を改善する必要性を感じていない。 自分の考えを積極的に発言はしないものの、聞いたことをメモしたり、考えをまとめて伝えたりすることができ 	<p>実習で明らかになった自分の課題と職場で求められる力を比べ、なぜ必要になるのかその理由を知り、まとめる。</p> <p>自分に必要な手立てを話し合っただり、意見から取り入れ、まとめる。</p> <p>改善の必然性を意識し、将来の生活に向けて実践を積み重ねる。</p>	<p>高等部3年生からのアドバイスを取り入れ、自分の課題と職場で求められる力を比べ、なぜ必要になるのかその理由を知り、まとめる。</p>	<p>高等部3年生からのアドバイスを取り入れ、自分の課題と職場で求められる力を比べ、なぜ必要になるのかその理由を知り、まとめる。</p>	

J	<ul style="list-style-type: none"> 立てた目標は分かっているものの、注意が散漫で短時間での実践にやりがちである。 称賛されることで、意見に自信をもち、自分から発言しようとする。 	<p>実習で明らかになった自分の課題と職場で求められる力を比べ、なぜ必要になるのかその理由を知り、まとめる。</p> <p>自分の目標と課題改善の手立てを考え、改善に向けた具体的な手立てをまとめる。</p> <p>実践や評価を積み重ね、自らの課題を改善することへの意識をもつ。</p>	<p>実習で明らかになった自分の課題と職場で求められる力を比べ、なぜ必要になるのかその理由を知り、まとめる。</p>	<p>実習で明らかになった自分の課題と職場で求められる力を比べ、なぜ必要になるのかその理由を知り、まとめる。</p>	<p>高等部3年生からのアドバイスを取り入れ、自分の課題と職場で求められる力を比べ、なぜ必要になるのかその理由を知り、まとめる。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> 摂食障害に伴い、自己肯定感が低く、学習経験や社会経験の積み重ねが乏しい。 教師と個別面談を通して、自分の課題や目標を話し合っている。 体調をみながら登校時間調整している。個別での学習が多いが、友達とのやりとりには表情良く参加している。 	<p>摂食障害に伴い、自己肯定感が低く、学習経験や社会経験の積み重ねが乏しい。 教師と個別面談を通して、自分の課題や目標を話し合っている。 体調をみながら登校時間調整している。個別での学習が多いが、友達とのやりとりには表情良く参加している。 </p>	<p>自分の目標と手立てを話し合う。</p> <p>日々の目標の達成状況と努力を振り返り、自分に自信をもつ。</p>	<p>自分の目標と手立てを話し合う。</p> <p>日々の目標の達成状況と努力を振り返り、自分に自信をもつ。</p>	<p>自分の目標と手立てを話し合う。</p> <p>日々の目標の達成状況と努力を振り返り、自分に自信をもつ。</p>	<p>自分の目標と手立てを話し合う。</p> <p>日々の目標の達成状況と努力を振り返り、自分に自信をもつ。</p>
K	<ul style="list-style-type: none"> 摂食障害に伴い、自己肯定感が低く、学習経験や社会経験の積み重ねが乏しい。 教師と個別面談を通して、自分の課題や目標を話し合っている。 体調をみながら登校時間調整している。個別での学習が多いが、友達とのやりとりには表情良く参加している。 	<p>摂食障害に伴い、自己肯定感が低く、学習経験や社会経験の積み重ねが乏しい。 教師と個別面談を通して、自分の課題や目標を話し合っている。 体調をみながら登校時間調整している。個別での学習が多いが、友達とのやりとりには表情良く参加している。 </p>	<p>自分の目標と手立てを話し合う。</p> <p>日々の目標の達成状況と努力を振り返り、自分に自信をもつ。</p>	<p>自分の目標と手立てを話し合う。</p> <p>日々の目標の達成状況と努力を振り返り、自分に自信をもつ。</p>	<p>自分の目標と手立てを話し合う。</p> <p>日々の目標の達成状況と努力を振り返り、自分に自信をもつ。</p>	<p>自分の目標と手立てを話し合う。</p> <p>日々の目標の達成状況と努力を振り返り、自分に自信をもつ。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 摂食障害に伴い、自己肯定感が低く、学習経験や社会経験の積み重ねが乏しい。 教師と個別面談を通して、自分の課題や目標を話し合っている。 体調をみながら登校時間調整している。個別での学習が多いが、友達とのやりとりには表情良く参加している。 	<p>摂食障害に伴い、自己肯定感が低く、学習経験や社会経験の積み重ねが乏しい。 教師と個別面談を通して、自分の課題や目標を話し合っている。 体調をみながら登校時間調整している。個別での学習が多いが、友達とのやりとりには表情良く参加している。 </p>	<p>自分の目標と手立てを話し合う。</p> <p>日々の目標の達成状況と努力を振り返り、自分に自信をもつ。</p>	<p>自分の目標と手立てを話し合う。</p> <p>日々の目標の達成状況と努力を振り返り、自分に自信をもつ。</p>	<p>自分の目標と手立てを話し合う。</p> <p>日々の目標の達成状況と努力を振り返り、自分に自信をもつ。</p>	<p>自分の目標と手立てを話し合う。</p> <p>日々の目標の達成状況と努力を振り返り、自分に自信をもつ。</p>
L	<ul style="list-style-type: none"> 課題の改善に向けて、実践的に行動に移す機会を設けることで行動の定着につなげている。 自分の考えや意見を広げながら話し合いに参加することは難しいが、自分に必要なアドバイスは聞き取ろうとする姿勢がある。 	<p>課題の改善に向けて、実践的に行動に移す機会を設けることで行動の定着につなげている。 自分の考えや意見を広げながら話し合いに参加することは難しいが、自分に必要なアドバイスは聞き取ろうとする姿勢がある。 </p>	<p>実習で明らかになった自分の課題と職場で求められる力を比べ、なぜ必要になるのかその理由を知り、まとめる。</p> <p>自分に合った手立てを話し合っただり、意見から取り入れ、手立てを具体的に示す。</p> <p>手立てを実践できた経験を積み重ね、実践的な場面での態度を身に付ける。</p>	<p>実習で明らかになった自分の課題と職場で求められる力を比べ、なぜ必要になるのかその理由を知り、まとめる。</p>	<p>実習で明らかになった自分の課題と職場で求められる力を比べ、なぜ必要になるのかその理由を知り、まとめる。</p>	<p>実習で明らかになった自分の課題と職場で求められる力を比べ、なぜ必要になるのかその理由を知り、まとめる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> 課題の改善に向けて、実践的に行動に移す機会を設けることで行動の定着につなげている。 自分の考えや意見を広げながら話し合いに参加することは難しいが、自分に必要なアドバイスは聞き取ろうとする姿勢がある。 	<p>課題の改善に向けて、実践的に行動に移す機会を設けることで行動の定着につなげている。 自分の考えや意見を広げながら話し合いに参加することは難しいが、自分に必要なアドバイスは聞き取ろうとする姿勢がある。 </p>	<p>実習で明らかになった自分の課題と職場で求められる力を比べ、なぜ必要になるのかその理由を知り、まとめる。</p> <p>自分に合った手立てを話し合っただり、意見から取り入れ、手立てを具体的に示す。</p> <p>手立てを実践できた経験を積み重ね、実践的な場面での態度を身に付ける。</p>	<p>実習で明らかになった自分の課題と職場で求められる力を比べ、なぜ必要になるのかその理由を知り、まとめる。</p>	<p>実習で明らかになった自分の課題と職場で求められる力を比べ、なぜ必要になるのかその理由を知り、まとめる。</p>	<p>実習で明らかになった自分の課題と職場で求められる力を比べ、なぜ必要になるのかその理由を知り、まとめる。</p>

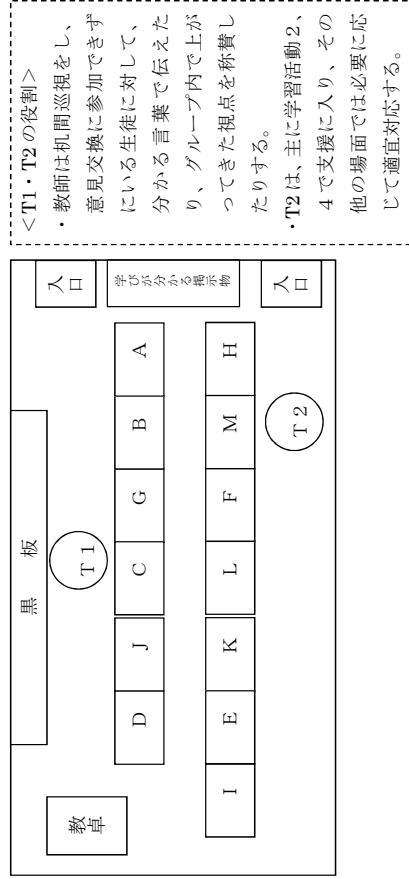
M	自分の課題や手立ては分かっているが、その時の自分自身の気持が優先し、行動が伴わないことが多い。	実習で明らかになった自分の課題と職場で求められる力を比べ、職場で必要な理由を知る。	高等部3年生からのアドバイスの取り入れ、課題の改善に向け、自分と合う手立てを見付ける。
	自分の考えをじっくりまとめたり、周りの意見を聞き取ろうとしたりする。	目標の達成に向けた手立てを話し合いで出した意見から取り入れ、自分に合った手立てをまとめる。	
		実践できた場面や手立てを振り返りながら実践し、自分に自信をもつ。	

(3) 学習過程

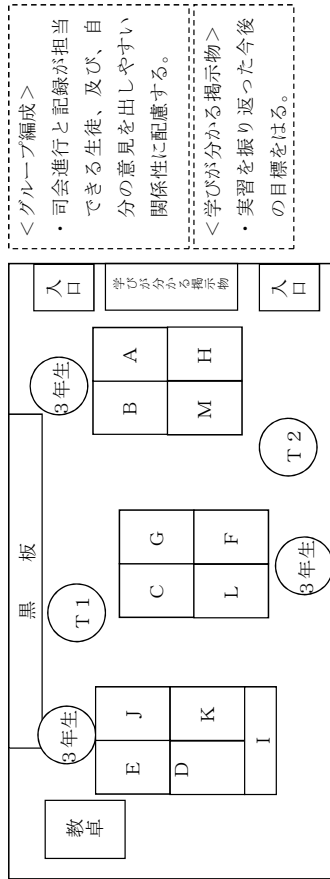
時間(分)	学習活動	手立て・指導上の留意点	準備物
11:20(2)	1 本時のめあてと学習活動を確認する。 【めあて】 目標の達成に向けて、自分に合った作戦を見付ける。	生徒が主体的に活動に取り組めるよう、生徒が本時のめあてと学習活動を見通せるよう、高等部3年生が話し合いに参加することと、授業のまとめで手立て(作戦)を紹介する場面があることを伝える。	めあてカード 学習活動 司会進行表 目標一覧 お礼ボード
11:22(25)	※3年生入場 2 グループで話し合った手立て、その理由を伝える。 (1) 自分の目標と考えた手立て、その理由を伝える。 (2) 高等部3年生のアドバイスを聞く。 ①自分も昔はこうだった。○○だから、改善しようと思った。 ②こんな作戦があるよ。 ※3年生退場	生徒主体で進行できるよう、めぐり式の進行表を準備する。 内容を整理して伝えられるよう、ワークシートを項目立てる。 話し合う視点がぶれないよう、グループごとに個々の目標と手立てをホワイトボードに示す。 自分が受けたアドバイスを友達へのアドバイスで参考になることをメモできるよう、付箋を準備する。 高等部3年生が自信をもって話したり、高等部1年生が良い意見であることに気付いたりできるよう、場面を捉えて大いに同意したり、称賛したりする。(T1・T2)	進行表(役割、活動内容、時間) タイマー ホワイトボード ワークシート 話し合いシート メモ 付箋

11:47(7)	3 自分に合った作戦を考える。	自分の考えを整理できるよう、ワークシートに手立てを決めた理由を書く項目を設ける。 手立てを選んだ理由を記入できよう、良いと感じた点に蛍光ペンで印を付けるように伝えたり、教師が要点を聞き取って伝え直したりする。	蛍光ペン
11:54(9)	4 決めた手立てを生徒同士で伝え合う。	自分自身の考えを整理できるように、友達に伝える活動を設定する。 話し合いで、自分が考えた手立てがより深まるような意見に気付けるよう、意見の良さを称賛しながら伝える。(T1・T2)	
12:03(5)	5 作戦カードに記入する。	作戦を振り返り返られるようカードに記入し、模造紙に貼り付ける。 生徒の決意が固まるよう、生徒と同じ目線に立って黒板を眺め良い点を称賛する。	作戦カード マジック 模造紙 両面テープ
12:08(2)	6 まとめを聞く。	自分から手立てを見つけた達成感が感じられるよう、めあてを振り返りながら称賛する。 次時以降の意欲が高まるよう、作戦カードを示しながらみんなで一緒に目標の達成に挑戦していくことを伝える。	

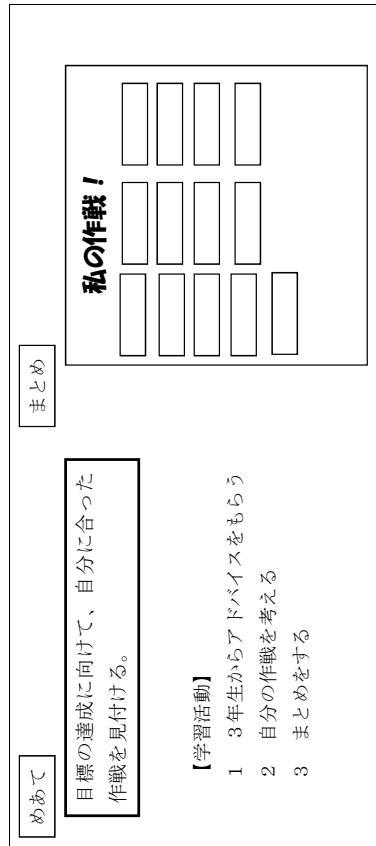
(4) 配置図
学習活動1



学習活動 2～6



(5) 板書計画



(6) 評価の観点

(生徒)

- ・なぜその作戦にしたのか理由も合わせて、自分に合った作戦を見付け伝えることができたか。
- ・自分自身の課題を改善していこうとする意欲は高まったか。

(教師)

- ・生徒が自分の作戦を見付けようと話し合いに参加し、考えを深めるための学習活動は適切だったか。

Ⅱ 各学部・寄宿舍の研究

寄宿舍

寄宿舎研究概要

1 研究テーマ

「歯磨きの技術習得を目指した生活指導の在り方」
～寄宿舎指導員の専門性向上の取組を通して～

2 テーマ設定の理由

社会生活を営む上で、衛生面に気を付けることは大切なことだが、本校寄宿舎生の実態を見ると、衛生面に対する関心が低く、歯磨きの正しい知識ももっていないため、磨き方が自己流だったり、丁寧さに欠けたりしている。また、磨くことに集中できず、歯磨きの時間が生徒同士の交流の場になっていることもある。指導体制としては、指導の仕方が統一されておらず、個々の実態に合わせた指導までは十分にできていない現状がある。

これらのことから指導員の指導力の向上や、環境を整えることで、生徒の歯磨きの技術向上につながるのではないかと考え、テーマを設定した。

3 研究仮説

歯磨きに関する職員研修の実施により、指導するために必要な知識や技術を高める。同時に、実態把握に基づいた指導や、教材教具、指導体制の見直し等を行い、効果的な指導方法を追究する。そのことにより、寄宿舎指導員の指導力が向上し、生徒の歯磨きの技術が向上するのではないか。

4 研究内容・方法

(1) 職員研修の実施

(2) 実態把握と情報共有

- ①学校・家庭・養護教諭との連携
- ②アンケートの実施（生徒・保護者）

(3) 教材教具の工夫

(4) 指導方法の見直し・改善

- ①重点目標の設定と小グループでの指導
- ②ICTの活用
- ③学習会の実施

5 研究計画

月	主な会議・内容	その他の取組
4月	研究推進委員会	
	研究全体会①	
5月	研究日①	・保護者アンケートの実施
	研究日②	
	研究全体会②	

月		主な会議・内容	その他の取組
6月	出前講座	・ 歯科衛生士による研修 (パワーアップSYAミナー)	・ 生徒アンケートの実施 ・ 実態把握①
	研究日③	・ 全校研究について ・ 指導内容の検討	
7月	研究日④	・ 指導体制・教材教具の見直し	・ 学級担任との情報共有
8月	研究日⑤	・ 学習会シミュレーション ・ ICTを活用した指導について	・ 学習会
9月	研究日⑥	・ ICT活用についての研修	
10月	研究日⑦	・ 指導経過の確認・修正	
11月	研究日⑧	・ 指導経過の確認・修正	
12月	研究日⑨	・ 指導経過の確認・修正 ・ 今年度のまとめ	・ 実態把握②
1月	研究日⑩	・ 今年度のまとめ ・ 各生徒の様子について	・ 研究紀要の原稿作成
2月	研究日⑪	・ 今年度のまとめと次年度の取組について	
	パワーアップ SYAミナー	・ 歯磨き指導の様子を紹介 ・ 保護者と情報共有	
3月	研究全体会③	・ 今年度の成果と今後の取組	
	研究日⑫	・ 次年度の取組について	

6 研究経過

(1) 職員研修の実施

職員、保護者が正しい歯磨きの知識を得ることを目的に、能代市の出前講座を活用して、歯科衛生士による研修を実施した。初めに、学校や寄宿舎での取組を紹介した後、歯科衛生士から、歯ブラシの選び方や間食の摂り方など、虫歯予防についての講話を聞いた。後半では、磨き方のポイントを分かりやすく教えていただき、実際に模型を使っての演習も行った。質疑応答しながら、正しい歯磨きの仕方への理解を深めることができた。また、職員と保護者が一緒に参加したことで、知識を得るだけでなく、歯磨きや生徒の情報を共有することもできた。

【研修の様子】



学校・寄宿舎での取組紹介



歯の磨き方の実演



演習

(2) 実態把握と情報共有

①学校・家庭・養護教諭との連携

学級担任とは、必要に応じて学校での歯磨きの様子について話合う機会を設定し、家庭とは、SYAミナーを通じて取組の様子や生徒の様子について話題にし、情報を共有した。学校や家庭でも、寄宿舎で使用しているツールや指導方法を共有して指導に当たることで、成果が見られた生徒もいた。

養護教諭からは、歯科検診の結果を提供してもらった。各生徒の口腔内の状態や治療状況を把握することができ、学習会で活用した。

②アンケートの実施(生徒・保護者)

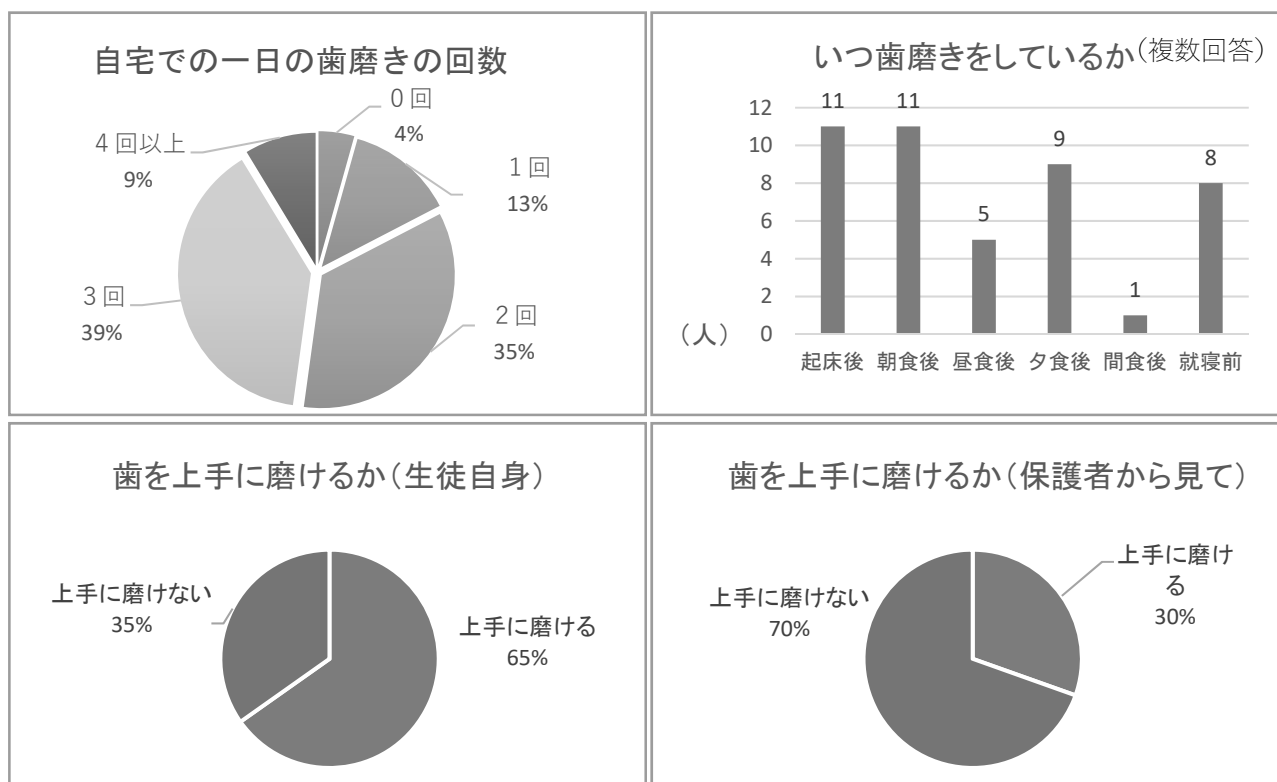
保護者から家庭での歯磨きの状況についてアンケートを行った。その結果、家での1日の歯磨きの回数は、3回が39%、2回が35%と多いことが分かった。時間帯では、起床後や朝食後に磨く生徒が多く、食事の都度磨く生徒はほとんどいなかった。

磨き方に関しては、上手にできていると感じている生徒が65%と多いのに対し、保護者は30%と低く、職員が行った実態把握においても、十分にできているとは言えない状況だった。

このことから、歯磨きの必要性について伝えるとともに、自分自身の歯磨きの状態を理解し、正しい磨き方を覚えられるような指導が必要であることが感じられた。

【アンケート結果(抜粋)】

(回答数:24名)



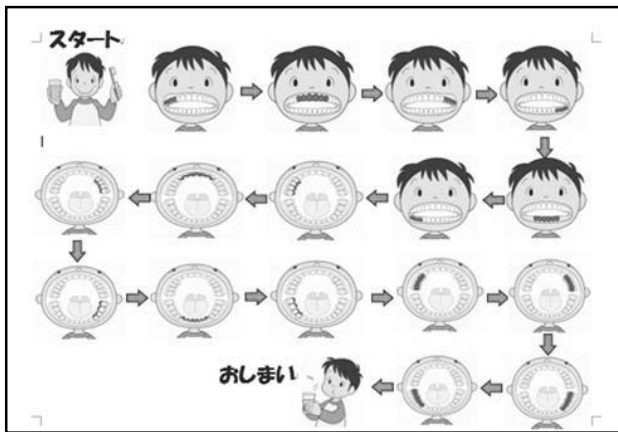
(3) 教材教具の工夫

これまで使用していた手順表は、磨く順番に流れがなかったが、歯科衛生士から、一筆書きになるような手順で磨くと磨き残しがなくなるとのアドバイスを受け、改善した。

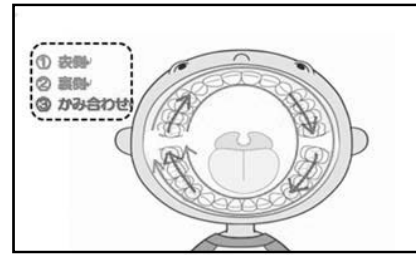
また、これまでめくり式のみだった手順表に加え、一覧になっている手順表や模型も新たに作成した。模型と一覧表は、歯の外側、内側、かみ合わせを色分けして示すことで、分かりやすくなるよう工夫した。これらの手順表は連動しており、どれを使用しても、同じように磨くことができるため、生徒が自分に合ったものを活用できるようになっている。

従来の手順表を活用している生徒に関しては、あえて改善した手順表は使わず、これまで通りのものを使用することで混乱がないように配慮した。

【新たに作成した教材教具】



【B】手順表 II



【A】手順表 I



【C】めくり式手順表



【D】模型

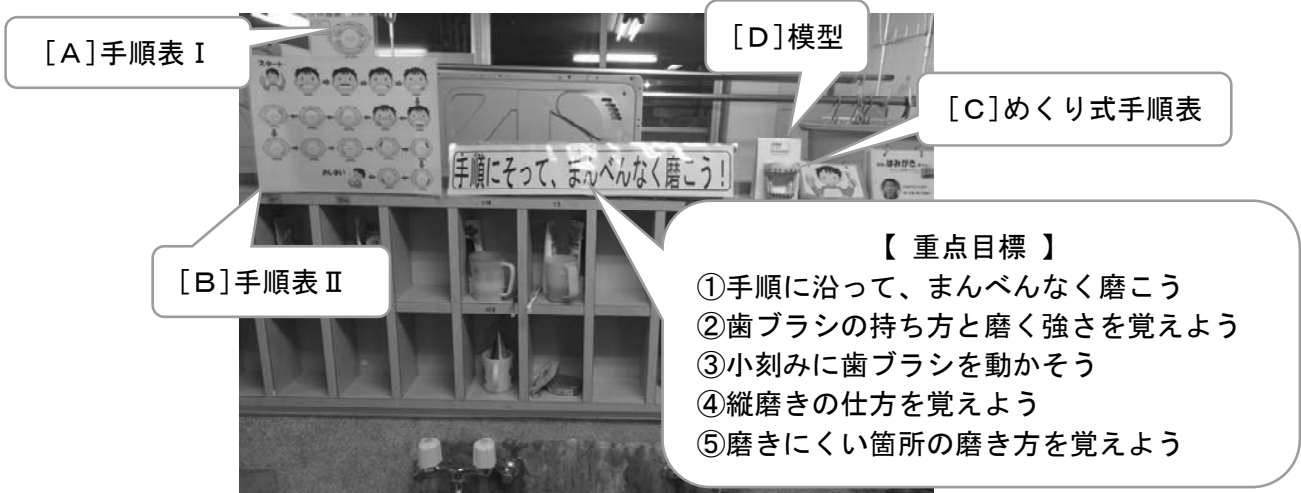
(4) 指導方法の見直し・改善

① 重点目標の設定と小グループでの指導

実態を基に重点目標を5つに絞り、2週間ごとに目標を変え、6～7名の小グループで指導した。目標は洗面所に掲示し、掲示もそれに合わせて都度入れ替えることで、その時々で気を付けてほしいポイントが分かりやすくなるように工夫した。

カラーテスターでの磨き残りチェックも実施した。普段の歯磨きでは気づきにくい歯垢などの汚れや、磨き残しが分かりやすくなるため、丁寧に磨くことにつながり、多くの生徒に対して有効な手立てであった。

【洗面所の様子】



【重点目標に合わせた掲示】



② ICTの活用

新たな試みとして、iPadを活用した指導を取り入れた。始めるに当たり、『指導教材用の動画作成について』の研修を行った。日本福祉大学 スポーツ科学部 教授 金森克浩先生の資料を参考に、動画作成のポイントを学び、重点目標ごとの指導動画を作成した。全職員で動画を見合い修正しながら、より生徒が興味をもち、分かりやすいものになるよう改善を重ねた。

【動画作成のポイントとして取り入れたこと】

- ①最初に概要を説明
- ②適度な長さ
- ③必要なシーンは静止画を入れる
- ④字幕や強調表示、アフレコなどを入れて分かりやすくする
- ⑤適切なキーワードを入れる（キャッチフレーズなど）

【作成した指導動画の一コマ】



【動画を活用した指導の様子】



動画を使って指導するようになってから、短時間しか歯を磨かなかった生徒が時間を掛けて磨くようになった、縦磨きをするようになったなどの効果が見られた。一方で、動画を見ることが目的になってしまっている様子もあり、今後の課題となっている。

セルフモニター（歯を磨いている生徒の様子を動画で撮影し、それを手本の動画と比較すること）も実施した。比較することで、できていない部分を理解し修正できた生徒、動画には興味をもったが、それを自分の歯磨きに反映させるまでは難しかった生徒など、様々な実態が明らかになった。また、友達同士で動画を見合い、意見を出し合うことが有効な生徒もいた。

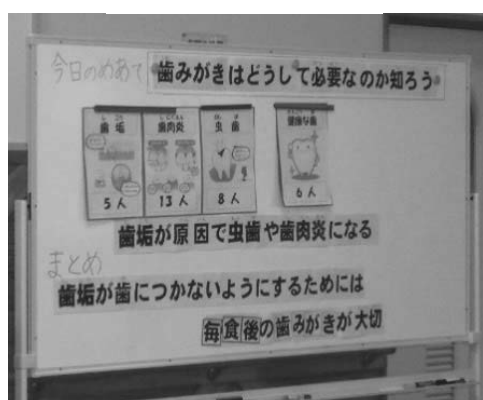
【セルフモニターのイメージ】



③学習会の実施

歯磨きの必要性を理解するための指導として、『どうして歯磨きが必要なのかを知る』ことをねらいとした学習会を実施した。初めに、歯科検診の結果の公表と、その症状について伝えた。検診は受けていても結果を知らない生徒がほとんどで、自分がどのような結果で、それはどのような症状なのか、今後どうしたらよいのかを知るきっかけになった。併せて、虫歯や歯肉炎にならないためにはどうしたらよいのかも伝えた。正しい歯磨きの知識については、クイズ形式で進めたところ、楽しみながら参加する生徒が多数見られていた。さらに、歯を磨かないとどうなるのかについて、画像や動画で伝えた。虫歯を引き起こす菌の動画はインパクトがあったようで、興味をもって見る生徒が多く、歯磨きをしなければという気持ちにつながっていた。

【学習会の様子】



7 成果と今後の取組

(1) 成果

これまでは、各指導員がそれぞれの知識や方法で歯磨き指導をしていたが、研究を通して、正しい知識を保護者とも共有しながら一緒に学び、それを基に指導方法や教材教具を見直したことで、指導環境を整えることができた。指導方法では、動画を用いた指導の導入を試みた。新たな取組だったため、試行錯誤を繰り返しながらではあったが、日々の指導につなげることができた。これらの一連の取組から、職員の歯磨き指導への意識も向上した。

生徒に関しては、学習会を通して、口腔内を健康に保つための方法や、毎食後の歯磨きの必要性についての意識付けを図ったことが、理解につながった。日々の指導の中では、動画の教材が効果的で、以前に比べて時間を掛けて歯を磨くことができるようになった生徒もいた。これまでの様々な指導により、動画を見ながらであれば動画と同じように磨くことができる生徒、めくり式があれば磨くことができる生徒など、それぞれの生徒の特性が見えてきている。

(2) 今後の取組

今年度は、カラーテスター、動画やセルフモニターなど、様々な方法を用いた指導を取り入れ、生徒の実態や変容をみてきた。今後は、今年度の指導の中で見えてきた生徒の様子から、個々の生徒に合った指導方法を取り入れ、より効果的な指導方法になるよう探していきたい。

歯磨きの必要性については、今後も学習会などを通して意識面に働き掛けながら、家庭でも自分から取り組むことができるための具体的な方策について、さらに考えていきたい。

Ⅲ 教育専門監との授業実践

1 授業実践について（小学部2・3年・国語科での実践）

題材名 「これ、なあに？ちからをあわせてせつめいしてみよう」

題材の要旨・特徴

男子2名、女子1名の学習グループである。身近な友達や教師との関わりが好きで、簡単な言葉や身振りを用いて気付いたことや思ったことを進んで伝えようとする様子が見られるが、伝えるだけで満足してしまい相手に伝わったという実感が薄いままやりとりが終わってしまったり、やりとりが一方的で話を聞く姿勢が不十分だったりすることがある。また、伝えたいことがあっても説明するための語彙が不足しており、気付きや思いを伝えることができないこともある。

本題材では、目の前にある具体物について、実際に使ったり自分の経験を思い出したりしながら、気付いたことや知っていることを自分なりの方法で育むことを目指している。児童にとって興味関心が高く、学校生活の中で普段使っていることで共通のイメージがある生活道具を取り上げることで、児童の日常生活における語彙や表現の幅を広げることができると考え、本題材を設定した。



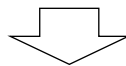
2 授業実践通して目指す姿

本題材を通して、児童の日常生活における語彙や表現の幅を広げることで、身近な友達や大人とのやりとりがより充実したものになればよいと考えた。そのために、児童が気付いたことや経験したことなど、他者に伝えたいと思ったことを、言葉や身振りなど自分なりの方法で相手が分かるように伝えようとする姿を目指した。

3 授業の工夫改善の実際と児童の変容

改善ポイント① 指導計画の見直し・改善

- ・児童が知っていることや気付いたことを伝えるための語彙が不足していることが課題としてあがったため、児童の語彙を拡充するために、題材として取り上げる生活道具について児童が知っていることや気付いたことを自由に発言する活動を設定した。
- ・児童から出た言葉は短冊に記入して黒板に掲示し、全体で共有した。



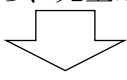
- ・児童にとって身近で、普段よく使っているものを扱ったことで、児童が興味関心をもって進んで活動に参加するようになった。教師や友達の話の聞こえようようになった。
- ・児童同士のやりとりが増えた。友達の身振りや動作に対して言葉を補ったり、友達から出てきた言葉をまねして使ったりする姿が見られるようになった。例えば「コップ」について、「ごくごく」と話していた児童が友達の発言を聞いて「飲む」と使えるようになったり、「飲む」と話すことができた児童も「ごくごく飲む」「水を飲むときに使う」などより詳しく話すことが出来るようになったりした。

<改善前>			<改善後>		
次	学習活動	時数	次	学習活動	時数
一	〇〇クイズ① ～ヒントをみて、きいてこたえよう～ ・身近なもの（動物、食べ物、生活道具など）に関するスリーヒントクイズに答える	9	一	〇〇ってどんなもの？ ・学校生活でよく使う生活道具（帽子、コップなど）について知っていること、気付いたことを話す	16
二	〇〇クイズ② ～クイズのヒントをかんがえよう～ ・身近なもの（動物、食べ物、生活道具など）に関するクイズ作り、出題	12	二	クイズにちょうせん！ ・身近なもの（生活道具）に関するクイズを作り、出題したり答えたりする	5



改善ポイント② 実物を使う場面の設定、動作の言語化

- ・学校生活で普段使っている生活道具について、実物を用意し、イラストと合わせて提示した。実際に触ったり、使ったりする場面を設定した。（「帽子をかぶる」「コップに水を入れて飲む」など）
- ・実際に実物を触ったり、使ったりしながら、児童から動作に合う言葉を引き出したり、教師が言葉を添えたりした。



- ・実物を使うことによって、普段使っているときのことを思い出したり、見た目から気付いたりしたことを、児童が自分から発言する姿が増えた。また、実物を使わないイラストのみを使った活動と比べて、活動に意欲的に参加できるようになった。
- ・イラストと実物が同じものだということが分かり、イラストのみでも生活用具の使い方や特徴

「国語科を通して目指す姿」を育むために

- ・児童の関心に即した、児童がたくさん話したい、伝えたいと思える題材の設定
- ・体験的な活動の設定 を大切にしたいと考えた。

4 実践の成果

- ・児童が意欲的に活動に参加したり、進んで発言したりする姿が増えた。生活道具について見た目の特徴や使い方、使う場面など、経験や気付きを多面的に話すことができるようになった。
- ・教師や友達の話を聞く姿勢が身に付き、友達の言葉をまねて使ったり、自分の知っている言葉で言い換えたりする姿が見られるようになった。
- ・普段の生活でも、やりとりをする際に単語ではなく、長く、具体的に話すようになった。

5 今後の取組

- ・児童の学習に対する意欲を高めることができるように、興味関心の高いものを題材として取り上げる。担任と情報交換を密にし、興味関心の把握に努める。
- ・学習内容が定着するように、繰り返し行えて発展性のある内容を取り上げる。
- ・具体物を用いた体験的な活動を設定する。
- ・二語文、三語文程度の文を話したり、作ったりする。

1 授業実践について（中学部1～3年合同 ④グループの実践）

題材名「新聞を読もう～謎チャレンジ～」

題材の要旨・特徴

中学部1年男子4名、中学部3年男子1名、女子1名の計6名の学習グループである。自閉的な傾向がある生徒、軽度の知的障害を有する生徒が所属している。ほとんどの生徒が机上学習に落ち着いて参加することができるが、1名は、学習に取り組むまで時間が掛かる場合がある。その日の気分によっては集団行動や教室への入室が難しく、注意がそれるとT1に抱き着いたり、暴言を吐いて授業妨害をしたり、教室を歩き回ったりすることがある。しかし、教師の働き掛けによって「授業に取り組まなければならない」「僕もやってみよう」と気持ちを切り替えることができれば、最後まで机上で授業に取り組むことができる。

本グループでは、4月の始めに、短い文章題を解く授業を行った。その際、過半数の生徒が文章の答えとなる一文やキーワードを探すことができず、文章題の読み取りに課題があることが分かった。また、読書活動についてアンケートをしたところ、活字の多い本を読む生徒は少なく、好きなキャラクターが出てくる漫画や雑誌を読む生徒が多いことが分かった。

さらに、授業中に選挙カーのアナウンスが聞こえ、「あれは何？」と生徒たちから質問があり、選挙について説明すると、「へー知らなかった。」「そんなこともやっているのか。」「お母さんも選挙に行ったかな？」など今まで関心のなかったことに対して、興味をもつ様子が見られた。これらの理由から、もっと世の中の事柄に興味をもち、生活に関連する事柄を学ぶ経験が必要であると感じ、今回の題材に取り組むことにした。



2 授業実践を通して目指す姿

本授業では、生徒が興味関心の幅を広げ、世の中の出来事に目を向けるきっかけとなるような授業にすることを心掛けた。そのため、新聞記事を読んで設問に合った答えを探したり、生活に役立つ情報を入手する方法を知ったりすることなどを通して、文章の内容を読み取る力を育てたいと考えた。また、新聞記事を読み、分かったことや感想などをまとめて発表する場面を設け、意欲や達成感を高めたいと考えた。

3 授業の工夫・改善の実際と生徒の変容

改善ポイント① 生徒の興味関心がある題材から段階的に選択する

・文章を読むことに苦手意識をもっていた生徒の、学習意欲が高まり、興味関心の幅が広がった。

取り上げた子ども新聞のテーマ

- ① 昭和・平成の仮面ライダーの歴史
 - ② ロケット
 - ③ おもちゃ花火
 - ④ 人を操る植物
 - ⑤ 揚げパン
 - ⑥ 野菜・フルーツ事件簿（植物に含まれる毒について）
- ・ トマト・綿
 - ・ 米・小麦
 - ・ お茶・大豆

子ども新聞以外に取り上げたテーマや本

・ テントウムシ ・ ミミズ ・ 役に立つ生き物 ・ 世界の学校生活

改善ポイント② 学習過程の統一・整理、個々に合わせた教材教具の工夫

- ・学習の流れを理解し、落ち着いて学習に向かえるようになったり、質問の答えを自分で探したりすることができるようになった。

学習過程

- 1 漢字練習をする
- 2 テーマを知る→新聞記事を読む
- 3 質問カードの答えを考える
→記事を読み、(設問①②) 答えを探す
- 4 グループでの話し合い(設問③)→答えを発表する。→分かったことをまとめる



教材教具と指導の工夫

- ・ワークシートの質問内容を整理
(漢字練習プリントの課題は新聞記事の中に出てくるものから選び、問題数や内容を個別に調整したものを用意する など)
- ・板書用新聞記事と生徒に配付する新聞記事をポイントごとに拡大し、カラー印刷した物を用意する
- ・生徒が落ち着いて過ごすことができる場所を考えた配置の工夫
(生徒 D への支援方法を T2 と確認、生徒の配置や話し合いが円滑に進むようなグルーピングの設定など)
- ・発問の精選と個々の活躍場面を設定

1	中国	中国産	中国産	中国産	中国産	中国産
2	日本	日本産	日本産	日本産	日本産	日本産
3	紅茶	紅茶産	紅茶産	紅茶産	紅茶産	紅茶産
4	土地	土地産	土地産	土地産	土地産	土地産
5	地力	地力産	地力産	地力産	地力産	地力産

「国語科を通して目指す姿」を育むために

- ・生徒にとって身近な出来事や興味関心の高いテーマから選ぶ
- ・生徒が答えやすい発問の仕方、個別の課題に合った教材教具の工夫(ワークシート)
- ・見通しをもって学習できるための学習過程の統一、整理

4 実践の成果

- ・文章を読むことに苦手意識をもっていた生徒が、文章を指でなぞったり、大事だと思われる文章にマーカーや鉛筆で線を引いたりしながら、読むことができるようになった。
- ・漢字学習への意欲が高まり、宿題を持ち帰ったり、漢字検定に挑戦したりする生徒がいた。
- ・ワークシートの質問に沿った語句を新聞記事から探し出し、正しい回答を出すことができた。
- ・今まで興味関心のなかった記事の内容でも、まずは読んでみようといった前向きな姿勢で授業に参加し、「こんなこと知らなかった。」「もっと詳しく知りたい」などといった感想が聞かれた。
- ・授業中の離席が目立っていた生徒が、自分の意見を自分の言葉でまとめて発表したり、最後まで参加したりできるようになった。

5 今後の取組

- ・様々な新聞記事を読み、自分の興味関心の幅を広げる。
- ・テーマを自分で選び、情報を選択し、分かったことを自分の言葉でまとめる。
- ・新聞記事などから一番伝えたい事を読み取ったり、自分なりに解釈して発表したりする。
- ・語句の意味について興味関心をもてるように辞書やタブレットなどを使って調べる。

1 授業実践について（高等部3年・国語科での実践）

題材名「 討論会をしよう 」

題材の要旨・特徴

本グループは高等部3年男子9名、女子2名の計11名で構成されている。学校生活の様々な場面で話し合いをし、話の結論をまとめたり、意見を出したりすることができてきている。しかし、話したい内容がうまくまとまらず話が長くなり、伝えたい内容をうまく伝えられなかったり、理由もなく唐突に意見を伝えたりすることがある。

本題材は、討論するテーマに沿って自分の意見を相手に分かりやすく伝えたり、相手が納得するような伝え方を考えたり、意見を簡潔に話したりする力を育成することをねらいとして設定した。

2 授業実践を通して目指す姿

今回の国語科の授業を通して、「相手に伝わるように理由を沿えて意見を話す」「相手が納得するような意見や伝え方を考えて話す」「意見を簡潔に話す」ことを目指して授業づくりを行ってきた。自分たちの意見について話し合う時間、質問や反論を考える時間を設定したことで、自分たちの意見をよりよくするためにどうしたら良いかを考え、友達に意見を自分から伝えたり、友達の意見を受け入れたりして積極的に人と関わることができるようになってきた。



3 授業の工夫改善の実際と生徒の変容

改善ポイント① 討論会での全員の学びの保障

題材の初めは、生徒たち自身で討論会を進行することがねらいの1つだったため、タイムキーパー、司会の役割の生徒は討論会には入らなかった。しかし、タイムキーパーや司会の役割を担う生徒の「学び」は何なのかを考えたときに、全員に発言の機会を設けた方が生徒自身の学びにつながると考え、進め方を変更した。このような取組を行ったことで、生徒全員が討論会に参加し、より多くの質問や反論を考えることができるようになった。

改善ポイント② 生徒が自分の考えを再構築する時間の設定

授業を展開していくうちに、双方の意見を聞いて迷う生徒が出てきたため「中間評価タイム」と「最終評価タイム」を設けた。この時間を設けたことで、「〇〇グループの意見に納得したから考えが変わった。」と述べる生徒がいた。自分の意見と相手の意見を比較し、考えを再構築する時間を設定したことは有効だった。

改善ポイント③ 理由を添えて説明するための問い掛け

意見が変わった生徒には「なぜ意見が変わったのか」や「〇〇チームの話し方で良かったところはどんなところか」などと問い掛けをした。発問を工夫したことで、「〇〇グループの具体例を挙げて話すところが分かりやすかったので、納得して意見が変わった。」など、具体的に理由を添えて話す生徒が増えた。

改善ポイント④ 生徒が討論しやすいテーマ設定

生徒の興味・関心に基づいた討論会のテーマを設定した。「移住するとしたら、大阪か能代か」というテーマでは、修学旅行で大阪に行った経験を基にして、「たくさん遊ぶところがある」や「お店が多いので欲しいものがすぐに見える」といった意見が生徒から積極的に出ていた。能代を選んだ生徒たちは「自然が多い」や「家族がいるから安心する」など能代や地元の良さを考えて意見を話すことができた。興味・関心に基づいたテーマを設定したことで、生徒が互いの主張についてのイメージがしやすくなり、活発に意見を述べたり、質問や反論を考えたりすることができ、言語活動の充実につながった。

改善ポイント⑤ 調べた内容・情報の活用

自分たちの意見をより具体的なものにするために、iPad を使って自分たちで必要な情報を調べ、意見の根拠とする活動を行った。「みんなでおやつを食べるとしたら、洋菓子か和菓子か」というテーマでは、カロリーや菓子の種類を調べて自分たちの意見に取り入れることができた。また、情報を調べたことで根拠のある意見となり、自信をもって話すことができるようになった。

「国語科を通して目指す姿」を育むために

- ・ 討論会を通して、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高める。
- ・ 他の人の意見を聞く
- ・ 理由付けとなる情報を調べる。
- ・ 互いの意見を比較することで、自分の意見を再構築する。
- ・ 経験のあることを討論会のテーマに取り上げて学習を展開する。

4 実践の成果

- ・ 経験したことや興味・関心のあることをテーマとして繰り返し討論会を行うことで、具体例を示しながら相手を納得させる伝え方ができるようになってきた。
- ・ 調べた情報を活用して、討論会の中で意見を述べるができるようになった。また、情報を比較しながら意見を述べるができるようになった。
- ・ 項目立てて話すことができるようになり、意見を簡潔に話すことができるようになってきた。
- ・ グループの中で自分の意見を友達に伝えたり、出た意見をまとめたりするようになった。
- ・ 相手の意見を聞いて、適切な質問をすることができるようになった。

5 今後の取組

- ・ 国語科の実践の成果を他の指導の形態でも実践。
- ・ 授業のねらいに沿った、学習活動や教材研究の充実。
- ・ めあての焦点化とめあてに対応したまとめの仕方の工夫。

IV 研究の成果と今後の取組

研究の成果と今後の取組

研究の成果と児童生徒の変容

1 「教科別の指導」の授業実践における成果

今年度は、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、各教科別の指導についての授業づくり、授業改善に取り組んできた。各学部の取組を通して得られた成果や児童生徒の変容、教師の変容などについて、以下にまとめる。

(1) 各学部実践で有効であった手立て

各学部の実践において、有効であった手立てを以下にまとめる。

	主体的・対話的・深い学びの視点での「題材構想」において有効であった手立て	主体的・対話的・深い学びの視点での「授業づくり」において有効であった手立て
小学部	<ul style="list-style-type: none"> 教科における児童の実態把握 チェック表活用による判断基準の明確化 複数の職員で行う児童の実態把握 など 教科としてのねらいや指導内容の確認 児童の実態に応じた、ねらいを達成できる題材の絞り込み 段階的で、発展性のある題材設定 体験的な学習活動を取り入れた題材の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の履歴が分かる環境設定 これまでの学習成果物の掲示、教材の提示 児童の発言の視覚化 言葉と意味（感覚や概念など）を結び付ける体験的な活動の取り入れや教材の工夫 児童の個々のねらいに応じた発問の工夫 児童の個々のねらいに応じたペアリング、グルーピングの工夫 「全体でのまとめ」と「一人一人の実態やねらいに応じた振り返り」の充実
中学部	<ul style="list-style-type: none"> 教科における生徒の実態把握（教科担当の職員全員での見取り） 全員が興味・関心をもち、個々の活躍場面を確保できる題材の設定 教科としてのねらいやその教科で育成したい力の確認と明確化 複数の動き（打つ、走る、投げる、捕るなど）から、生徒が身に付けたい力を自分で考え、柔軟に決めることのできる題材の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって取り組むことのできる学習活動の設定 ミーティング活動の取り入れと充実 「自分の課題を考える」「チームとしての作戦を考える」「活動を振り返り、評価する」などの様々な目的に応じた活用 生徒たちの意見、話合いの結果を尊重した学習内容の設定 学習の履歴が分かる壁面掲示・ワークシート
高等部	<ul style="list-style-type: none"> チェックリストを活用した生徒の実態把握 判断基準の明確化 把握した生徒の実態の共有方法の工夫 巡回指導についての職員研修会の実施、巡回指導の体制づくりの整備、巡回指導の視点の整理 など 巡回指導の記録と授業との関連付け 内容の並び替えや整理により活用できる記録へ、「生徒に気付いてほしい」視点の整理 など 実習での課題をより具体的に改善するための学習活動の工夫 ロールプレイや話合い活動の取り入れ 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで進める学習活動の工夫 学習の流れを一定にする、授業に関する情報の掲示、教師が行っていた学習の説明を生徒が担当 など 「理由」を考える活動設定 先輩のアドバイスを聞く場面の設定 アドバイスをする側（3年生）、アドバイスを受ける側（1年生）双方での学び リフレクションの時間の設定 体験を伴う、実感が得られる、気づきがある学習活動の設定と「心が動く」場面設定の必要性を確認

(2) 児童生徒の変容

「教科別の指導」の授業づくり、授業改善を目指した授業実践において、以下のような児童生徒の変容を育むことができた。

小学部

①これまで学習したと結び付けながら学習する姿

- ・前時までの学習を思い出し、「〇〇と同じだ」「△△みたい」とこれまで学んできたことと結び付けて話すようになった。
- ・「～と同じ」だけでなく、「形と色は同じだけど、味は違う」という表現をすることも増えてきた。

②自分の気づきを表現する姿

- ・繰り返し、五感を使って事物をじっくりと観察する学習を重ねてきたことで、自分から「線がある」「穴が開いている」などと自分で新たなことに気付いて発言する様子が増えた。
- ・周りの情報（児童の授業内での発言を視覚化した掲示物・短冊、友達が発言した言葉など）を手掛かりとして、自分から積極的に発言したりするようになった。

③相手の話を聞く姿

- ・グルーピングの工夫や伝え合う活動の取り入れなどにより、友達の発言をよく聞こうとするようになった。また、友達の意見に同意をしたり、自分と異なる意見を受け入れて意見を変えたりするようにもなってきた。

④語彙の広がり・概念との結び付き

- ・繰り返しの学習、また、具体物を使ったり、体験を取り入れた学習によって、表現する言葉の種類が増えてきた。
学習を始めた当初は、「形は？」→「赤」とちぐはぐに答えていた児童が、学習を積み重ねることによって、「形は？」→「ほそながい」といったように正しく答えられるようになった。

⑤日常生活で活用しようとする姿

- ・普段の生活でも複数の言葉を組み合わせて話したり、教師の質問の意味を理解し、考えてから答えたりするようになった。自分の考えを言葉や発声、身振りで積極的に表現することや、相手に分かりやすく伝えようとする場面が増えてきている。

中学部

①自分の目標をもつ、そしてその目標を達成するために積極的に工夫する姿

- ・「投げる」「打つ」「捕る」などの様々な動きから、上達したい動き・課題を自分で決め、「今日は〇〇を頑張る」「今日はこの前できなかった△△ができるようになりたい」などと目的意識をもち、自分から授業に取り組むようになった。
- ・研究で取り上げたベースボールの実践では、目標達成に向け、ティーバーの組み合わせを変えて自分の打ちやすい高さを工夫したり、バットを構える位置を調整したりするようになった。

②実践して上手くなったことを、友達に伝える姿

- ・どんな動きをして、どんな道具を使ったら上手くなったのかを、実物を見せたり、動きを交えたりしながら具体的にチームの友達に話したり、教え合ったりする場面が見られるようになった。

- ・友達の練習している様子を見て、「〇〇さん、もう少し△△したらよく飛ぶよ」「僕でちょうどいいから、□□さんは短いバットの方が使いやすいんじゃない？」など、自分の体験を基にアドバイスをすることが増えた。

③話し合うことで、アクシデントに対応したり、自分たちのルールを作ったりする姿

- ・「打った球が体育館の外に出てしまった」「決められた場所に置いておくはずのアウトボックスを持って走ってしまった」など、授業が進む中で様々なアクシデントが出てきた。その一つ一つを丁寧に取り上げ、生徒たちに考えさせるようにしたところ、生徒たちで話し合い、意見をまとめながら対応するようになった。
- ・「守備のときにどこまで出て良いか分からない」「ヒットなのかファールなのか分かりづらい」などの意見があった。曖昧な点をみんなで話し合うことで「ファウルラインと守備ラインを設ける」「ファウルの場合はやり直しをする」「四人で守る」などのルールを自分たちで、決めることができた。
- ・車椅子を利用している生徒に対しての配慮（「打った後に友達が代走する」など）の意見が自然に出されるようになった。

④お互いの頑張りを認める姿

- ・友達が失敗したときには「どんまい!」、良いプレーがでたときには「〇〇さん、ナイス!」などと声を掛け合ったり、すれ違いざまにハイタッチをしてお互いを称賛しあったりするようになった。

高等部

① 生徒同士による活発な意見交換

- ・学習を積み重ねること、実際に体験をすることなどを通し、話し合い活動に広がりを感じられるようになった。体験を通して理解を深めたことを話すだけでなく、その体験を通して自分はどんなことを感じたのかなどにも触れながら、話すことができるようになった。
- ・学習を進めるに当たり、話す際は理由を添えるという観点を設けた。このことで、生徒が自分と対話して意見を伝えたり、相手の話をよく聞こうとしたりするようになった。

② 生徒の学習意欲や主体性の向上

- ・身近な存在である先輩にアドバイスをもらう活動を取り入れたことで、自分のことと結び付けて考えようとする姿や、熱心にメモをとったり質問をしたりする姿が見られた。
- ・異学年での学び合い「先輩からアドバイスをもらう活動」は、下学年の生徒に変容をもたらしただけでなく、アドバイスをする側（3年生）にとっても、変容をもたらした。相手に伝わる言葉で、分かりやすくまとめようと自分の体験を振り返ったり、事前に伝えたいことをまとめたりする姿が見られた。

③ 今後の自分の行動について考える姿

- ・職業科での取組ではあったが、そこで得られた課題は、職業科の授業時間だけで解決が図られるのではなく、学校生活全般、さらには家庭生活でも意識して取り組んでいかななくてはならないことを意識するようになった。
- ・日常的に自分の課題と向き合い、改善を図っていくために、どんなことにどのように取り組んでいくのかを考えるだけでなく、「なぜ必要なのか」という理由を考えることが定着してきている。

以上のように、各学部の実践を通し、児童生徒に様々な姿・変容を育むことができた。この姿・変容を育むことができた要因の一つに、授業実践を通じた教師の力量の高まりが挙げられる。このことについて次にまとめる。

(3) 教師の「教科別の指導」に対する意識の高まり

今年度の実践を通し、教師にも変化が見られるようになった。教師へ行った聞き取りからいくつかを抜粋して掲載する。

教師から得られた意見（1年間の実践を振り返って） ※抜粋

- 教科別の指導の授業をつくる際、何をよりどころにしたら良いのかが分かった。
- みんなで一つの授業をつくってきたことで、授業づくりの手順ややってみて良かったことなどを共有できた。そのことを自分の授業づくりにも取り入れて実践するようになった。
- 自分の実践した教科に対しては少し自信がもてるようになってきた。ただ、実践していない教科に対してはまだ不安が残る。
- 教科別の指導においても、教科等を合わせた指導と同じように、子どもたちの実態把握が大事なことを再確認することができた。
- 教科別の指導の授業のつくり方が分かってきた。やっていることもほぼ間違っていないと思えるようになってきた。でも、今度は子どもたちの学びをしっかりと見とれているのか不安だ。
- 3つの視点で教科別の指導を検討してきたことで、新たな進め方、新たな視点に気付くことができ、勉強になった。特に、子どもたちが上手くなるための工夫を自分たちで考え、工夫しながら目標に近付いていく授業構成が新鮮だった。これからの実践に生かしていきたい。
- 根拠に基づいて題材を検討できるようになってきた。しかし、集団が大きくなってきたときに、児童生徒の実態に応じた題材を準備できているのか不安になる。
- 教科別の指導だからこそ、実態、育みたい姿、一人一人の学び方の特徴などを、学級担任とグループの担当が話し合っって共有していくことが大切だと感じた。
- 教科別の指導に焦点を当てて研究してきたことで、教科について再度勉強することができた。普通小・中学校等とまるっきり同じ方法・指導はできないまでも、知的障害のある児童生徒にどんなことを大事にして指導をしていくのかを考えることができた。学習課題だけでなく発問の仕方や板書・掲示などを見直していくきっかけになった。
- 全校研に向けての授業づくりで、どんどん授業が改善されていった。全校研だけで終わらないように、すべての学級・学習グループで簡易的な授業研を行い、授業力向上に努めたらいいのではないか。
- 「教科別の指導」を行う上で、自立活動が全ての指導の基盤となっていることを確認したことで、自立活動の視点も大事にするようにした。実態差のある集団の学習でも、子どもたち一人一人に学びがあるように授業の構成や活動を考えるようになった。

1年間の実践を終え、教師からは以上のような意見が聞かれた。

実践を始める前は、教科別の指導に対する不安や自信のなさが押し出されていたのだが、実践することでその不安が和らいだだけでなく、自分たちの指導にも自信をもち始めていると考えられる。また、「教科別の指導」を研究対象として進めた1年であったが、自立活動の視点の取り入れや各教科等を合わせた指導の授業づくりとの関連なども考えるきっかけとなった。

(4) まとめ

以上の各学部の成果及び児童生徒・教師の変容から、知的障害特別支援学校で学ぶ児童生徒が、各教科別の指導において、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を実現していく授業実践としていくために、特に大切であると考えられたことをまとめる。

今年度の実践からは、次のキーワードが得られた。

①児童生徒の「実態把握」

授業実践を行うに当たっては、児童生徒の発達段階や学び方の特徴など、児童生徒の実態を的確に把握していくことが大切であると、3学部、そして教師から出された。その際、よりの確で具体的な目標設定へとつなげていくために、学級担任や教科の主担当が一人で担う実態把握ではなく、複数の職員で、多方面から児童生徒の実態を捉えることを大切にしていきたい。

本校では、教育課程コーディネーターを交えた検討会を実施している。今後もそのスタイルでの検討会を継続実施し、児童生徒の的確な実態把握へとつなげていく。

また、児童生徒のステップアップへとつなげていくため、チェックリストを活用するなど、判断基準を明確にした実態把握も大切にしていきたい。

②情報の「共有」

今年度の実践では、情報を共有し合うこと、共有した情報を生かしていくことが児童生徒の成長や教師の変容へとつながり、とても有効であった。

情報共有の仕方は様々であったが、ただ把握して終わるのではなく、共有したことを生かし、活用していくことがさらに大切であることを確認した。引き続き大切にしていきたい。

③授業づくりの「基礎基本」の再確認

「教科別の指導」においては、やはり、基礎基本に立ち戻り、指導内容や単元構成を考える必要があることを改めて確認した。そのため、「特別支援学校学習指導要領」や「特別支援学校学習指導要領解説～各教科等編（小学部・中学部）～」へと立ち戻って考えることを大切にしたら、題材・単元決定の根拠とするようになった。

また、知的障害のある児童生徒を指導する特別支援学校であることを受け、「特別支援学校学習指導要領解説～各教科等編（小学部・中学部）～」の一節「知的障害のある児童生徒の教育的対応の基本」も再確認した。これらを確認することで、授業づくりに自信をもって臨めるようになってきた。

さらに、教科別の指導を支える自立活動の視点も授業づくりでは大切にしていきたいという思いも強くなってきている。授業づくりに関する基礎基本の確認は、今後も大切にしていきたい。

今後の取組

(1) 今年度の実践の成果を生かした授業づくり

- ・今年度研究対象とした各教科別の指導の授業改善を通して得られた成果を、他の各教科、他の学習グループなどにおいても生かし、実践していく。

児童生徒の的確な実態把握、発達段階の考慮、体験的な学習活動の取り入れ、見通しをもって取り組むことのできる学習活動の設定、情報の共有及び活用、学びの履歴の分かる教室環境づくり など

- ・全ての指導の基盤となっている自立活動の視点も取り入れながら授業づくりを進めていく。併せて、各教科等を合わせた指導とのつながりも検討し、一人一人の学びをつなげていく。

(2) 評価の充実

- ・職員が同じ視点で児童生徒の変容を見取ることができるように、共通の指標の設定を検討していく。
- ・単元・題材検討や指導案検討に加え、単元・題材終了時の評価の機会を定期的に設ける。

(3) 小学部から高等部までの系統性を踏まえた教科別の指導の検討

- ・指導内容が各学部でどのようにつながっているのか、また、系統性をもって構成されているのかなどを再確認していく。その際、各学部で作成している共有シートを活用していく。

(4) 実態差のある児童生徒同士による話し合い活動の充実と工夫

- ・言葉での表現が難しい児童生徒への支援ツールや方法、教材の工夫などをより一層工夫していく。
- ・何を学んでほしいかを明らかにした上で、意図的に話し合い活動を取り入れていくことができるよう、題材設定や学習過程を検討していく。

あとがき

本校では、昨年度、社会に開かれた教育課程編成の在り方として、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた学習過程の改善を目指し、「あきたの探求型授業」を基に実践を行ってきました。各学部とも教科を取り上げ、学習過程の改善に焦点を当てることで教師の授業力の向上を図ってきました。本年度は、各教科に対する理解をさらに深め、各教科で学んだことが日常生活や社会生活に生きるようにするにはどうしたらよいかということから、研究主題を「主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた教科の授業づくり」とし、実践を行いました。

各学部が今年度の研究に取り上げた教科は、小学部が「国語科」、中学部が「保健体育科」、高等部が「職業科」でした。知的障害をもつ児童生徒の学習上の特性として、学習で得た知識や技能が断片的、実際の生活の場で応用されにくい、主体的に活動に取り組む意欲の不足などがあげられます。各学部ともこれらを踏まえ、教科の中で日常生活や社会生活に結びつく实际的、具体的な内容について指導に取り組みました。

全校授業研究会は3回実施しましたが、提示授業の中で、小学部は「身近な食べ物の特徴」、中学部は「ベースボール」、高等部は「働くための課題と改善策」を取り上げ、それぞれ授業の目的に対して一定の成果がみられたと思います。一方、研究協議の指導助言の中で、「教科指導の段階や個々の子どもたちが目指す資質・能力を押さえ、生活に即した具体的な活動を通しての指導」ということがありました。それぞれの子どもたちが目指す資質・能力をより明確にしたうえで、各教科の目標や内容に即した指導に一層力を入れていく必要があると感じました。また、「深い学び」の実現のためには、各教科等の見方・考え方を踏まえて、教科等横断的な視点から意図的に指導内容を関連付けていくことも重要になってくると思います。研究2年目の次年度に向けて、本校教育の質の向上に一層努めていきたいと考えています。

最後になりますが、本研究を進めるに当たり、秋田県教育庁特別支援教育課、主任指導主事 佐藤圭吾氏をはじめ、指導主事 中村素子氏、指導主事 菊地真理氏、また、授業研究会に参加していただきました秋田県立比内支援学校、かつの校、たかのす校、天王みどり学園、ゆり支援学校の皆様に御指導御助言をいただき誠にありがとうございました。併せて、本紀要を御高覧いただきました皆様より忌憚のない御意見、御指導をいただきますようお願い申し上げます。

教 頭 平 川 研

研 究 同 人

校長 佐藤 淳
 教頭 平川 研
 教頭 福士 智子

研究部 主任 加藤美和子
 小学部 伊藤綾華 加藤 茜
 中学部 小林結衣子
 高等部 佐藤加奈子 佐々木歩佳
 寄宿舎 水谷あすか 佐藤千鶴子
 西嶋一就 星一美

【小学部】

主事 工藤未央
 1年1組 高橋沙織
 菊地 操
 1年2組 小林 生
 菊地直枝
 2・3年1組 秋元仁美
 今井萌子
 2・3年2組 伊藤綾華
 鈴木梨沙
 小沼后子
 4年 筒井 仁
 村岡静香
 5・6年 加藤 茜
 山谷美樹
 高橋正義
 学部所属 山本泉子
 佐藤洋美
 村形日都美

【中学部】

主事 伊藤健人
 1年1組 齊藤舞子
 竹田泰生
 1年2組 小林結衣子
 木村 尚
 安田幸道
 2年 大谷陽子
 大和路子
 佐々木捷吾
 3年 大塚佳樹
 堀江奈美子
 学部所属 泉 拓行
 加藤美和子
 小笠原英紀

【高等部】

主事 工藤智史
 1年A組 橋本 基
 柏崎久美子
 佐藤香菜子
 1年B組 落合久貴子
 佐藤里沙
 嶽石 涼
 1年C組 佐藤加奈子
 金子志保
 五十嵐美月
 鈴木雄裕
 2年A組 佐藤響子
 武藤拓人
 2年B組 佐藤暁子
 小野 格
 工藤達矢
 大山裕子
 3年A組 齊藤彩野
 佐々木歩佳
 中田耀介
 3年B組 館山 柊
 伊藤あゆ子
 学部所属 東谷いずみ
 虻川由作
 菊地昭子
 館岡敏正

亀谷孝子
 長谷川善行
 畠山祐佳里

【寄宿舎】

主任 鳥潟真紀子 西嶋一就
 馬場真理子 大高尚子
 工藤幸喜 佐藤初子
 菊池静香 阿部 洋
 鷲谷恵理 星 一美
 佐藤千鶴子 太田里香
 水谷あすか 浅野航大
 金子聡子 武田 乃
 藤田志穂子

研究紀要 しらかみ 第26号

令和2年3月 発行

発行者 秋田県立能代支援学校
 〒016-0005 秋田県能代市真壁地字トトメキ沢135番地
 TEL 0185-55-0691
 FAX 0185-55-0681
 E-mail noshiro-s@akita-pref.ed.jp
 ホームページ <http://www.noshiro-s.akita-pref.ed.jp/>